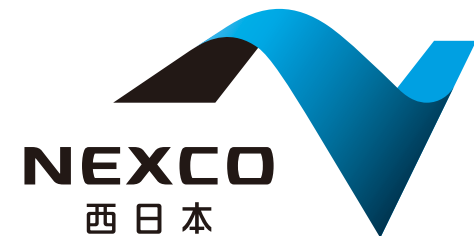


みち、ひと…未来へ。



●ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本

会社の英語表記「West Nippon Expressway Company Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した―“みち”とともに、“みち”の先へ―を表す「Next(次なる)」と、「Co(「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

●ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道进行ること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

●ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。

企業情報



道路交通情報



SA・PA情報



観光情報



お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 経営企画部 CSR推進課
TEL (06)6344-4000(代表) FAX (06)6344-7183
インターネットからのお問い合わせ:
NEXCO西日本ウェブサイト(https://www.w-nexco.co.jp)から、[お問い合わせ]ページへアクセスできます。



NEXCO西日本グループレポート

2025

みち、ひと…未来へ。



みち、ひと・・・未来へ。

高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を。
地域を愛し、地域とともに生きる。
たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ。



CONTENTS

トップメッセージ	P.3
グループ理念・CSR活動方針	P.5
私たちについて	
事業概要	P.7
中期経営計画「進化2025」	P.9
NEW ACE DXs	P.11
特集 2024年問題への対応と工事の安全管理	P.13
安全・安心	
高速道路の保全	P.19
高速道路リニューアルプロジェクト	P.21
災害対応力の強化	P.25
交通安全	P.27
ネットワークの強化	
新規建設・6車線化	P.33
スマートIC	P.36
4車線化	P.37
快適に、豊かに	
料金・ETC	P.41
SA・PA	P.45
地域共創	P.53
サステナビリティへの基盤	
人とともに	P.57
環境経営の推進	P.61
コーポレート・ガバナンス	P.65
海外への展開	P.68
財務情報	P.69
データ	
会社概要・NEXCO西日本 組織図・グループ会社	P.71
事業エリア	P.72
NEXCO西日本グループのあゆみ	P.73
CSRの重要課題と取り組み状況	P.75

NEXCO西日本グループレポート編集方針

本レポートは、ステークホルダーの皆さまに、当社グループのCSRに対する考え方や事業を通じた社会の持続的な発展に向けた取り組みをわかりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして作成しています。

- 報告対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日
(上記期間外の情報も一部含まれます)
- 報告対象範囲：NEXCO西日本及びグループ会社
- 発行時期：2025年6月(前回2024年6月、次回予定2026年6月)
- 注意事項：本レポートに掲載されている将来についての計画や事業に関する見通しは、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。施策の実施予定や完了時期は、公表時点のものであり、状況により見直すことがあります。また、端数処理の関係により、表等の合計が合わない場合があります。

- 使用する略称
「NEXCO西日本」「当社」：西日本高速道路株式会社
「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」：
西日本高速道路株式会社とその子会社及び関連会社を含めたグループ全体
NEXCO3会社：NEXCO東日本、NEXCO中日本、当社
「JCT」：ジャンクション 「IC」：インターチェンジ
「スマートIC」「S」：スマートインターチェンジ
「SA」：サービスエリア 「PA」：パーキングエリア

名神全通60周年



表紙の写真は、日本で最初的高速道路として完成し、2025年に全通60周年を迎える名神高速道路吹田ICの料金所と、高速道路の安全・安心を支える当社グループの社員です。本ページの写真は、名神集中工事での夜間工事の様子です。受発注者一体でコミュニケーションをとり、工事安全管理に取り組んでいます。



次の20年を見据えて

01 事業を取り巻く経営環境

2024年度の高速度道路を取り巻く経営環境の変化として大きなものは「2024年問題」への対応が挙げられます。2024年4月に働き方改革関連法が施行され、建設業・運輸業における時間外労働の上限規制が始まり、各業界に大きな変革がもたらされました。当社グループとしても、建設業の働き方改革と工事円滑化の実現に向け、2024年3月に「工事管理スリム化ガイド『4-you』」と行動宣言を策定し、業界の皆さまと意見交換を重ねながら、デジタル技術の活用や業務プロセスの見直しなど様々な施策を実行しています。運輸業に対しては、休憩施設の大型車駐車マスの拡充など、確実な休憩機会を確保するための取り組みを継続しています。働き方改革は一朝一夕で完了するものではありません。引き続き、高速度道路をつくる側・つかう側双方の課題やニーズの変化に対応し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。2024年問題とあわせて特に重要な課題が「工事の安全管理」です。当社グループでは、2016年の新名神建設工事における有馬川橋桁落下事故を契機に、受発注者が協力して重大事故防止の安全対策を講じる重大事故リスクアセスメントを定め、安全・安心を最優先にすることをグループ理念にも掲げて事業に取り組んできました。しかしながら、

2025年1月に中国道鷹の巣橋のリニューアル工事において吊足場が崩落する工事中事故が発生し、その後も重大事故が続発したことから、改めて、決して重大事故を繰り返さないという決意のもと、工事の安全管理の徹底について受発注者間で確認を行い、安全対策を強化しました。“安全は全てに優先する”。これは当社グループの事業を進める上での根幹を成すものです。また、「安全」はサステナブルな社会の実現に欠かせないものでもあります。高速度道路の進化を推進するために、工事の安全管理と働き方改革、工事の円滑化を同時に実践するべく、重大事故を防止する不斷の努力を続けてまいります。

02 民営化20周年

2025年10月に、当社は設立20周年の節目を迎えます。この間、私たちは、24時間365日、安全・安心な高速度道路の維持管理に加え、新名神をはじめとした新規建設や4車線化、高速度道路リニュアルプロジェクト、SA・PAにおける物流支援や魅力向上など、多くの事業を着実に実現してきました。激甚化する豪雨や地震等の自然災害に対しても経験値を積み重ね、耐震補強などの災害対策や迅速に復旧を行う災害対応力を磨いてきました。また、2025年度は中期経営計画「進化2025」の5か年の最終年度でもあります。2025年度は、これまでの歩みを振り返りつつ、新たな5年、次の20年を見据えた第一歩とする、そのような年にしたいと考えています。変化していく経営環境や新たなモビリティ社会の到来に対して、限られた資源を有効に活用しながら、高速度道路の安全・安心と新たな価値を提供し続ける。そのために当社グループが取り組むべき事業を、次期中期経営計画として策定してまいります。

03 DX実装の定着の年

民営化時と比べ3倍を超える規模となっている事業量に対応し、中期経営計画「進化2025」を着実に推進するため、「経営資源の柔軟かつ最適配分」、「多様な人財の活躍」、「更なる生産性の向上」の3つの柱からなる「進化に挑む重点方針」を基本として、会社全体の業務執行能力の向上に取り組んでいます。そのうち、生産性の向上にあたっては、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が不可欠です。当社グループでは、DX戦略を「NEW ACE DXs（先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する）」（※）と定め、グループ一丸となって推進しています。2025年度は「DX実装の定着の年」とし、DXに必要な基盤を整備すべく「グループ全体のIT最適化」を実現します。グループ会社とのIT環境統合によるファイルサーバの共同利用など、新たな業務環境を整備することで、更なる生産性の向上を実現してまいります。

04 人とともに進む

当社グループにとっての最大の資産は、社員そのものです。変化し続ける社会に応じて高速度道路が進化し続けていくためには、ノウハウの集合体である社員が、多様な発想とチャレンジ精神を持ち、最大限の力を発揮することが欠かせません。失敗を恐れることなく、チャレンジし、未来を切り開いていく多彩な「人財」を育成することが、当社グループと社員一人ひとりの成長にとって重要であると考えています。そのため、社員が安心して長く働き続けられる会社とするべく、社員同士が何でも言い合える風通しの良い明るい職場環境づくりや、それぞれのライフスタイルに合わせて自らキャリアを選択し能力を高められる環境整備に取り組んでいます。

05 地域の新しい魅力づくり

多様化する地域課題に対し、地域と連携して地域創生を目指す「地域共創」活動は、2025年度で6年目を迎えました。代表的なプロジェクトである「旅っちゃ」は、地域の飲食店などで使えるクーポンが入った小型チケット販売機をSA・PAに設置し、広域的に地域へ誘客を図るもので、九州を起点に始めたものが、2024年度には管内各地にて自治体との連携実績を生み出しました。このほか、「動くサービスエリア」など多種多様なプロジェクトを展開しています。オーバーツーリズムが社会問題化する一方、依然として観光振興へニーズが高い地域も多くあります。人と地域をつなぐ当社グループのノウハウを活かして、地域とともに新しい価値をつくる「地域づくりのプラットフォーマー」を目指し、引き続き挑戦してまいります。

※ NEW ACE DXs:「NEXCO West」の頭文字と「Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy（先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する）」からなる当社グループのDX戦略の略称

06 環境経営の推進

2008年から環境経営を推進しています。「環境基本計画2025」では「脱炭素社会の実現」、「循環型社会の形成」、「自然と共生する社会の推進」を3つの重要テーマとして定め、事業活動の様々な側面におけるアクションプランを立て、環境負荷の低減に取り組んでいます。また、気候変動対策として重要なカーボンニュートラルの実現についても、2030年度までに温室効果ガス排出量を50%以上削減することを目標とし、ネットワーク整備等による円滑な交通確保、電気自動車急速充電設備の増設や、道路空間を活用した省エネルギー化等を推進しています。

07 持続可能な社会の実現に向けて

当社グループでは、CSR活動方針を「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」と定めています。高速度道路の進化に挑み続けることにより社会インフラの機能を更に高め、我が国の持続的な発展と豊かな未来の実現に貢献することが、NEXCO西日本グループの使命であり、社会的責任であるからです。これは、グループ理念「私たちは、高速度道路の安全・安心を最優先に、高速度道路の進化に挑み続け、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します」にも共通する精神であり、持続可能な社会の実現に貢献することは、社会インフラを担う者としての責務であると考えています。高速度道路の安全・安心の確保、ネットワークの強化、地域との連携、環境経営等、当社グループのあらゆる事業活動を通じて、ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する取り組みを推進し、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

08 おわりに

これからも、事業活動を通じて、お客さまや、沿道地域の皆さまをはじめとした社会、投資家・国民の皆さま、お取引先、グループ社員等、様々なステークホルダーに対し、社会インフラとしての責任を果たしてまいります。皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。



誰もがいきいきと働くことができる持続可能な建設業界を目指すため、当社と日本建設業連合会の共催で「女性技術者交流フォーラム」を開催。これからの建設業界を担う受発注者の若手女性技術者の視点を取り入れ、業界全体で、多様な人々が働きやすい環境の整備を進める取り組み。

グループ理念

高速道路の使命

私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、
高速道路の進化に挑み続け、
地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します

高速道路は、人々の生活に深く根差し、永く将来にわたり日本の文化・産業の発展に寄与する重要な社会基盤です。
私たちNEXCO西日本グループは、人や物の全国的な交流・流通を支える高速道路事業やSA・PA事業などを通じて、西日本地域の経済の発展と生活の向上に貢献するという使命に応えます。

また、良好な環境の保全・形成や、技術や人材交流を通じた国際社会の発展などに積極的に取り組み、あらゆる面で良き企業市民として、社会的責任(Corporate Social Responsibility)を全うします。



CSR活動方針

インフラ企業として、すべきこと

事業活動を柱として、
社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSR(企業の社会的責任)は、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。
具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することが、社会の持続的な発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。



主な事業活動とSDGs



01

ENVIRONMENT
環境

- 脱炭素社会への取り組み
- 循環型社会の形成
- 自然と共生する社会の推進





02

SOCIAL
社会

- 高速道路の整備と長期保全
- 災害対応力の強化
- 交通安全の取り組み
- 新しいモビリティ社会への対応
- 高速道路を通じた地域貢献





03

GOVERNANCE
ガバナンス

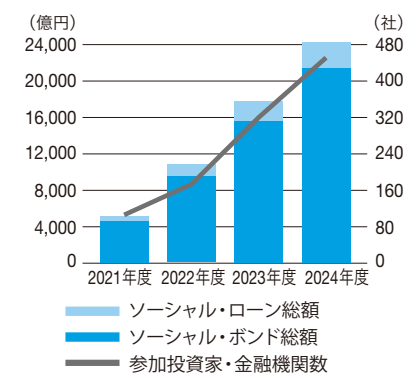
- 適切なリスクマネジメント
- コンプライアンスの徹底
- ダイバーシティの推進
- ジェンダー平等の実現
- 積極的な情報公開
- 公正な取引関係





SDGs達成へ貢献 × 資金調達

当社が策定したソーシャル・ファイナンス・フレームワーク※が、ICMA(国際資本市場協会)の定めるソーシャルボンド原則に適合している旨の外部評価を、2021年6月から取得しています。
ソーシャル・ファイナンスによって調達した資金により、高速道路の新設・改築等を行うとともに、加速化する道路の老朽化、激甚化・頻発化する自然災害、逆走防止といった安全・安心対策などの事業活動を通じて、SDGsの達成に貢献します。

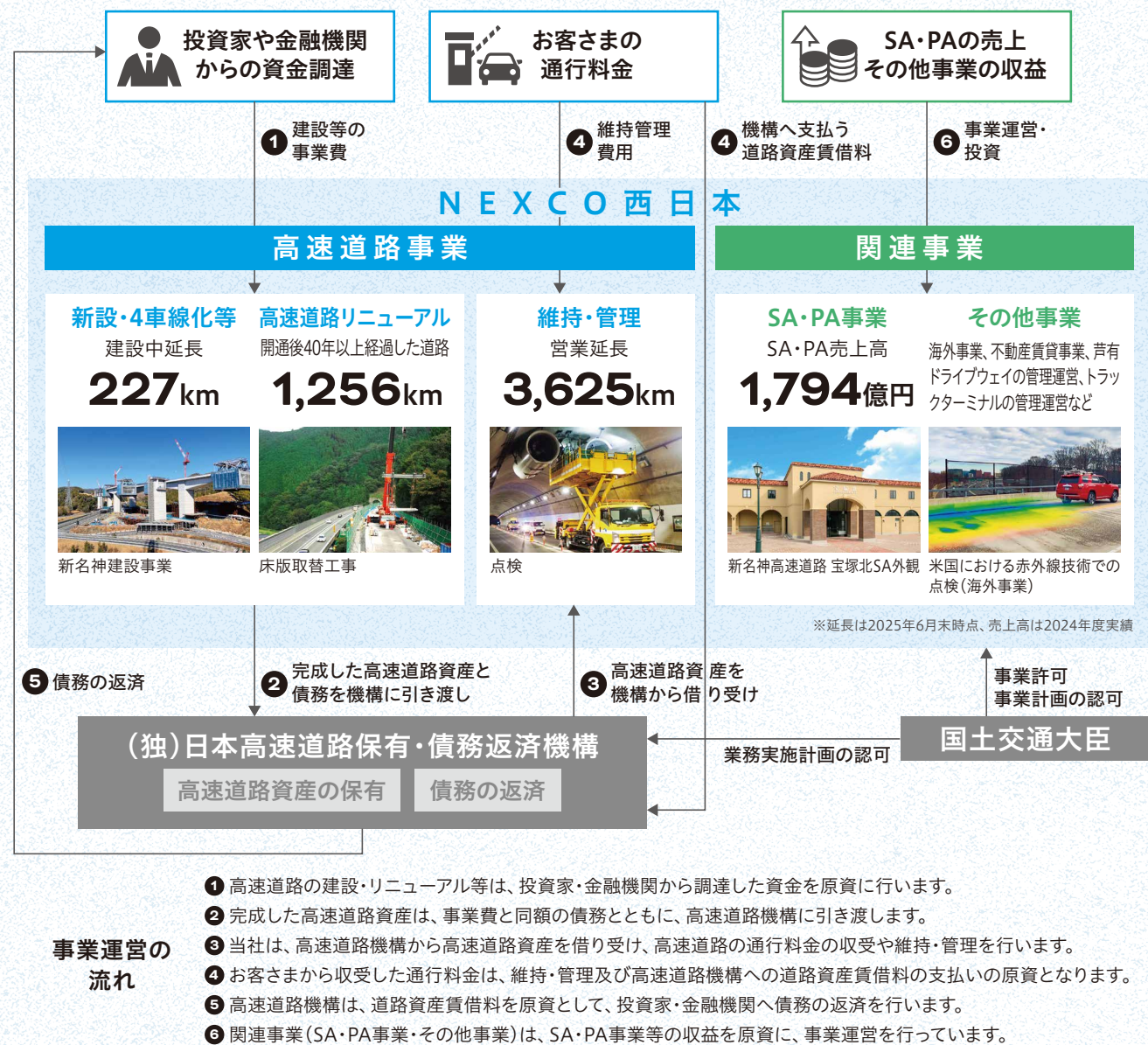


※ 当社の高速道路事業(新設、改築、修繕並びに大規模更新)等とSDGsとの親和性を4つの視点(調達資金の使途、プロジェクトの評価及び選定プロセス、調達資金の管理、レポート)から取りまとめた資料

事業概要

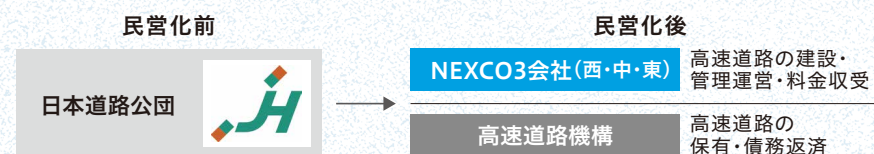
当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。グループ会社とともに、西日本エリアの高速道路の建設や維持管理、SA・PAの運営などを行っています。

事業の枠組み

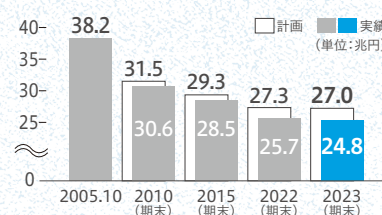


日本道路公団民営化の目的

- 旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
- 必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
- 民間企業のノウハウを発揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。



高速道路機構の債務残高



※全国路線網(NEXCO3会社)、首都高速道路、阪神高速道路、本州四国連絡高速道路、及び全国路線網以外の一般有料道路を含む

高速道路の料金徴収期間

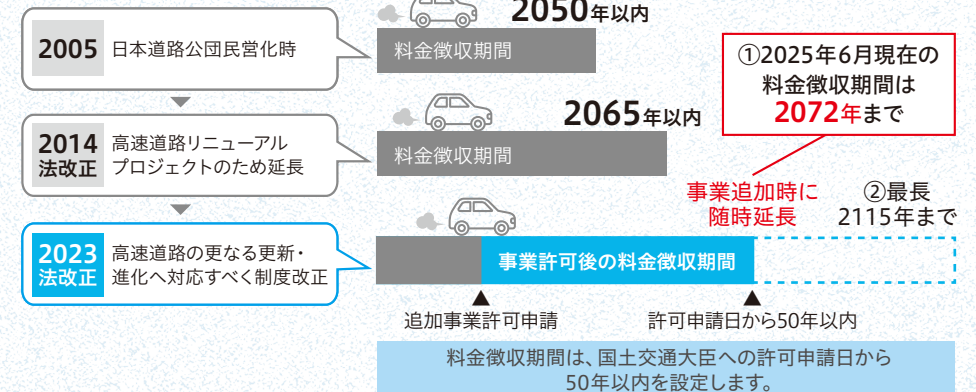
高速道路の有料道路制度

高速道路の有料道路制度は、早期に道路整備を図るため、借入金によって道路を建設し、完成後に、お客さまから通行料金を収受することで、借入金を返済していく制度です。この通行料金の水準は、道路の建設や維持管理に要する費用を、ある一定期間内で償還できるようにするという観点から決定されています。

料金徴収期間

当社設立後、料金徴収期限は、2回の変更が行われました。2023年の法律改正では、①料金徴収期間は国土交通大臣への事業許可申請日から50年以内に設定するものとし、②料金徴収期間の設定は最長で2115年を期限とすることとなりました。

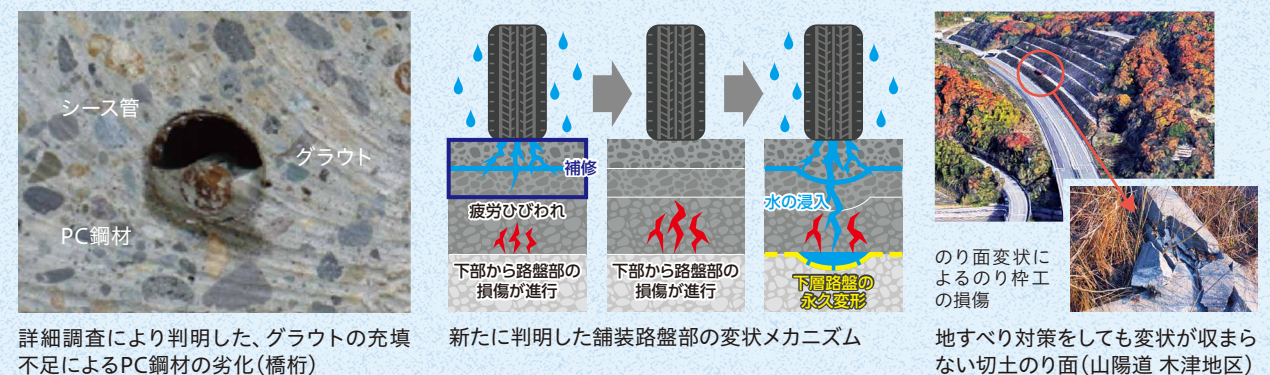
民営化後、現在までの料金徴収期間



2023年の法律改正の概要

老朽化や社会・経済構造の変化に対応した迅速かつ計画的な更新事業・進化事業を実施するために、2023年5月、道路整備特別措置法及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法が改正されました。

更新 点検技術の高度化を踏まえた詳細調査の結果、著しい変状が確認され、新たな更新事業が必要



詳細調査により判明した、グラウトの充填不足によるPC鋼材の劣化(橋桁)

新たに判明した舗装路盤部の変状メカニズム

橋梁

- ・床版取替(P.21-24)
- ・グラウト充填材の再注入

土工舗装

- ・舗装路盤部の高耐久化(P.22)
- ・地滑り対策をしても変状が収まらない切土のり面のボックスカルバート化+押え盛土

進化

社会・経済構造の変化などにより生じた、社会的要請を満たすための機能向上が不可欠

暫定2車線区間の4車線化(P.37-38)/耐震補強(P.25)/SA・PAの利便性向上 等



短時間限定駐車マス(P.46)の実証実験



近年の地球温暖化やデジタル技術の急速な進歩により、今後、高速道路に求められる機能や役割が大きく変化していくと考えられます。

当社グループは、**経営環境の変化に柔軟に対応する「進化」を遂げる**ことで、社会から求められる役割や使命を果たすとともに、高速道路の新たな付加価値を生み出し、進化した高速道路サービスを提供していきたいと考えています。

進化2025の詳細はこちら



役員の声 『進化2025』の最終年度を迎えて

当社グループの高速道路は、2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の流行による経営環境の変化を受けながらも、この4年間で、播磨道(播磨新宮IC～山崎IC)と徳島南部道(徳島JCT～徳島沖洲IC)の開通や、高速道路リニューアルプロジェクト、耐震補強、大型車駐車マスの拡充、店舗リニューアルなど、多くの進化を遂げてきました。最終年度である2025年度も、引き続き着実に事業を推進してまいります。併せて、掲げたビジョンをどこまで実現できたのかを改めて振り返るとともに、将来の高速道路を取り巻く環境や新たなモビリティ社会の到来を見据え、今後当社グループが取り組むべき計画である次期中期経営計画の策定を行っていきます。

代表取締役専務執行役員 経営企画本部長 後藤 貞二



経営環境の変化

高速道路

- 高速道路の老朽化の進行
- 自然災害の激甚化・頻発化
- CASE※1・MaaS※2の進展
- 自動運転技術の向上・発展
- 次世代自動車の普及 等

社会

- 5G※3大容量通信サービスの開始
- AI※4やICT※5等の技術革新の進展
- 少子高齢化の進行
- ポストコロナ社会の新しい生活様式の定着
- SDGs※6の取り組み 等

※1 Connected(コネクテッド)・Autonomous(自動化)・Shared & Service(シェアリング&サービス)・Electric(電動化)
 ※2 Mobility as a Service(サービスとしての「移動」) ※3 第5世代移動通信システム ※4 Artificial Intelligence(人工知能)
 ※5 Information and Communication Technology(情報通信技術) ※6 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)

将来のありたい姿

中期経営計画 5つのビジョンと重点施策

新たな時代に即した進化



高速道路の安全・安心を いつまでも守り抜く

- 点検補修の進化[P.19-20]
- 大規模更新・大規模修繕の推進 [P.21-24]
- 交通安全対策の進化[P.27-30]



多発する自然災害から 地域と暮らしを守り抜く

- ネットワークの進化～ミッシングリンクの解消等～[P.33-36]
- ネットワークの強化～暫定2車線区間の4車線化～[P.37-38]
- 高速道路の強靱化～耐震性の向上～[P.25]
- 災害対応力の強化[P.25-26]



新しいモビリティ社会に向けて 高速道路を進化させる

- 高速道路機能の進化[P.34]
- 物流支援～休憩施設の充実～[P.13,45-47]
- 料金所のキャッシュレス化・タッチレス化[P.44]
- 道路情報提供の高度化
- 通信ネットワークの進化



高速道路の 顧客体験価値を高める

- 新しい価値を提供するSA・PAの進化[P.49-54]



持続的に進化する 企業を目指す

- 高速道路を活用した地域貢献 [P.43,48-54]
- 社員が活躍できる環境づくり [P.57-60]
- DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進[P.11-12,19-20]
- 環境に関する取り組みの推進～脱炭素社会に向けて～[P.61-64]
- 海外事業の発展[P.68]
- SDGs達成への貢献[各ページ]

NEXCO West ACE DXs

Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy.

先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する

“NEW ACE DXs”とは

2021年に定めたDX推進戦略の名称で、社名と「先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する」という英語の頭文字をとりました。DXを推進していくには、グループ全社員間において共通理解を形成することが重要であると考え、統一的な方針のもと有機的な連携を目指すべく、名称を定めました。

DX戦略の詳細はこちら



DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

道路公団民営化時と比較し3倍を超える膨大な事業量に対応し、高速道路の進化を着実に推進するため、DX推進戦略「NEW ACE DXs」を定め、デジタル技術の活用による業務の効率化・生産性の向上を進め、当社グループの企業価値の最大化を目指しています。

重点施策	① マインド醸成	グループ全社員の意識改革
	② 基盤整備	DXに必要な環境整備
	③ 人材育成	デジタル知識を活用できる人財の育成
	④ 業務処理の効率化	業務効率化と自動化の実現
	⑤ 業務・サービスの高度化	高速道路マネジメントの高度化

センサーや衛星データで
変位・土壌水分を計測し、
のり面などをモニタリング

ウェアラブルカメラによる
遠隔立会で、生産性UP

3次元モデルを活用した設計・施工で
効率化・高度化

SA・PA店舗アプリで
効果的な販促とCS向上

有人チャットや
リモート化で
お客さまへのご案内を
向上・省人化

CCTVカメラでのAI判定や
ETCプローブデータで
事故などを早期発見・対応

ドローンや高性能カメラで
橋梁点検を効率化

料金精算機の改良で
タッチレス化・省人化

ETC専用化で
キャッシュレス化
タッチレス化

車載カメラの映像から
AIで変状を自動抽出し
点検を高度化

カメラでのAI判定で
駐車マス混雑情報の
提供を自動化

6車線化や技術開発で
後続車無人隊列走行など
自動運転に対応

走行しながら
覆工表面を撮影し
トンネル点検を効率化

5G通信の活用で
路面清掃を遠隔自動化

高速道路のDXによる業務効率化・高度化イメージ

道路管制センター

AIで事故など交通インシデントの
早期発見・対応の迅速化

ICTの活用で設備管理・点検の
遠隔化・省力化・高速化

オフィス

システム化や
AI、RPAの活用で
業務を効率化

BIやデータの
活用で業務を
高度化

多様な情報をGISで見える化
関連性が一目でわかり
意思決定を迅速化

- DX (Digital Transformation) : デジタル技術を活用して、業務そのものやプロセスを変革すること
- AI (Artificial Intelligence) : 人工知能
- BI (Business Intelligence) : システムに蓄積した膨大なデータを可視化するツール
- RPA (Robotic Process Automation) : 定型的に反復する事務作業を高効率で処理するソフトウェアロボット
- GIS (Geographic Information System) : 地図上で位置や空間に関する情報を管理・分析するシステム

2024年問題への対応と 工事の安全管理

当社グループの事業全体に共通する課題のうち2024年度に重点的に取り組んだ項目として、建設業と運輸業の時間外労働の上限規制に伴い発生するいわゆる「2024年問題」への対応と、重大事故の防止に向けた「工事の安全管理」の取り組み状況を紹介します。

建設業の2024年問題 ～働き方改革及び工事円滑化の推進～

業界団体との意見交換会等に基づき、長時間労働の是正が急務である業界からの要望を踏まえて、受注者の負担軽減に対する取り組みを進めています。（詳細はP.14-15）

業界の要望を踏まえた最優先課題

1. 設計変更や対外協議のための資料作成の削減
2. 品質管理、出来高管理の効率化、書類の簡素化



(一社)日建連と当社役員を交えた意見交換会(2024年2月)



NEXCO西日本 代表取締役 芝村副社長執行役員(当時) (一社)日本建設業連合会 風間公共工事委員長



取り組みの浸透のため NEXCO3会社共通で 使用している 行動宣言ポスター

課題解決のために取り組む4つの柱

設計図書の 品質向上

- ・設計成果品に係る照査体制の強化
(十分な確認期間を確保し、受発注者間にて照査を実施)

書類作成の 軽減

- ・提出頻度の多い定型書類を集約化
- ・受発注者双方が発議できる工事変更等検討会を導入し、意思決定を迅速化かつ作成資料の簡素化

適正な 工期の設定

- ・週休2日工事の完全実施
(災害復旧を除く全ての工事を週休2日とする)
- ・工事着手前の準備期間及び工事完了後の後片付け期間の十分な確保

施工管理の 効率化・省力化

- ・一定の品質基準を満たすコンクリート(配合)であれば各種試験の省略及び提出書類の削減

運輸業の2024年問題 ～物流事業者への支援～

大型車の駐車マスの増設

大型車の駐車マス不足対策として、V字駐車マスへのレイアウト変更等により、大型車駐車マスの拡充を実施(詳細はP.45)



ダブル連結トラック駐車マスの整備

深刻なドライバー不足への対応のため、トラックでの輸送を省人化できる「ダブル連結トラック」の駐車マスを整備(詳細はP.45)



大型車の短時間限定駐車マスの実証実験

より確実な「休憩」機会を確保するため、大型車の短時間限定駐車マスを実証実験中(詳細はP.46)



シャワーステーションの整備

休憩の快適性向上のため、コインシャワーとコインランドリーを併設したシャワーステーションを11カ所整備(詳細はP.47)

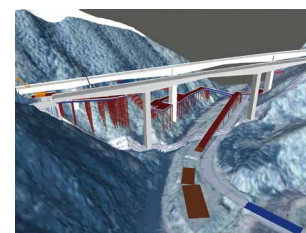


建設業の働き方改革及び工事円滑化に向けた4つの柱

2024年度の主な取り組み

1 設計図書の品質向上

工程初期の調査・設計段階で3次元モデルを活用して集中的に検討し、工事開始後の手戻りを防止



3次元モデルを用いた橋梁設計により、仮橋などの仮設物やクレーンなどの配置・計画を検討

「設計・計画WG(ワーキンググループ)」を義務化

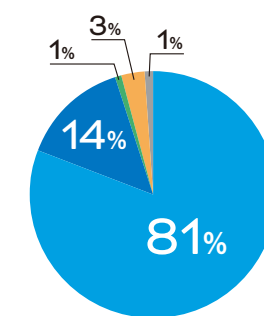
豊富な経験を有する社員をメンバーに含めた「設計・計画WG」を実施し、現地状況に応じた工事用進入路や工法選定等の確認を行い、適切な工事計画を策定



2 適正な工期の設定

週休2日(発注者指定方式)を継続実施

2024年に実施したフォローアップでは、95%の工事で「4週8休」が確保できていることを確認



アンケート結果

- 4週8休(土日閉所)
- 4週8休(通期)
- 4週7休
- 4週6休以下
- 無回答

施工日数の算出方法に「雨休率」を新設

年間の休日に加え、降雨・降雪や猛暑日などを考慮した工期を設定できるよう、雨休率(0.4)を新設し、必要な施工期間を確保



3 書類作成の軽減

受発注者の役割分担に関する判断事例を共有

詳細設計の追加時など、受注者の負担で実施する業務と発注者が実施する業務の境界を判断しやすくし、また、受注者の負担となる場合の必要な費用と工期を確保するために、参考となる判断事例を設計変更ガイドラインに追記



受発注者間のコミュニケーション向上により 判断や課題解決にかかる労力を削減

「事務所長と受注者(本・支店及び現場)による懸案事項に関する確認会議」や「工事変更等検討会」を活用し、受注者の資料作成や指示待ち時間の削減並びに発注者による工事変更指示や方針検討の効率化を実施



4 施工管理の効率化・省力化

施工管理アプリを導入し、出来形管理を効率化

タブレット等により現場にいながら出来形管理書類を作成できる環境を整備し、書類作成時間を削減



遠隔立会の拡大

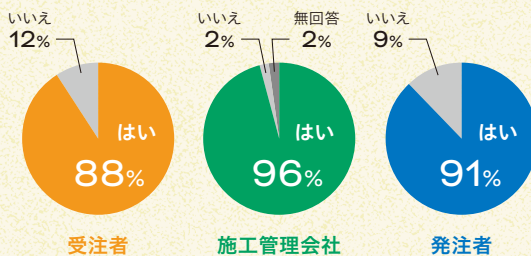
遠隔立会の要件を見直し、遠隔立会をより活用しやすいよう改善



タブレット及びアプリを使用した遠隔立会実施例

建設業の働き方改革及び工事円滑化フォローアップアンケート結果
現場における認知度・浸透度工事管理スリム化ガイド
『4-you』4つの柱の推進に必要な情報を
まとめたガイドブックを2024年
3月に公表。適宜、取り組み状況
や意見を踏まえた改定も実施。

- (1) アンケート概要
働き方改革及び工事円滑化の取り組みの認知度・浸透度を、全14項目で調査
- (2) 調査期間 2024年8月22日～2024年10月4日
- (3) アンケート対象者
受注者: 既契約工事(土木)のうち2023年度より前に発注した工事(276工事)
発注者: 上記に該当する当社の担当組織(116組織)
施工管理会社: 上記に該当する担当の施工管理業務(134業務)
- (4) 現地ヒアリングの実施
アンケートをもとに抽出した22工事について現地ヒアリングを実施し、アンケートを補完

Q. 工事管理スリム化ガイドを、資料作成や
受発注者間の協議に活用していますか

受注者の声

発注者からの対外協議資料作成依頼や内部説明資料作成の依頼が、これまでと比べて少し減っていると感じます。受発注者間の役割分担の明確化が進めば、改善も更に進むのでは。

施工管理会社の声

働き方改革のためのワンデーレスポンスやウィークリースタンスを改善しよう努めていますが、発注者が多忙なため難しい場面がまだあります。受発注者間のコミュニケーションを更に高める必要があると感じています。

工事管理スリム化ガイド『4-you』 活用している内容ベスト5

- 週間工程表に立会予約・現場代理人不在届等を集約し事務手間を軽減
- 施工体制台帳や安全教育訓練資料に不要な資料の掲載は不要と明記したことで提出のやり取りが改善
- ウェブ会議を開催する機会が増え、移動時間や紙での書類が削減
- 遠隔臨場(主に遠方の工場検査関係)の活用で移動時間が削減
- 発注者の立会時は写真不要であることが浸透し事務作業が減少

アンケートにより判明した改善点について、引き続き、具体的な対策を行い、受発注者双方の働き方改革及び工事円滑化に取り組みます。



TOPICS

香川労働局より、ベストプラクティス企業に選定されました

厚生労働省香川労働局が行う「過重労働解消キャンペーン」の一環として、地域において長時間労働削減等に向けて積極的に取り組んでいる「ベストプラクティス企業」に当社が発注する耐震補強工事が選定され、2024年11月に、香川労働局長が高松道の耐震補強工事の現場を訪問されました。



責任者の声

受発注者双方の業務効率化へ

今回は、当社の働き方改革及び工事円滑化の取り組みを評価いただきました。「休・効・適・話」を合言葉に、受注者の皆さまと働き方改革に取り組み、今まで当たり前に提出を求めていた書類の中にも簡素化できるものがあることに気づかされました。これは自社の業務効率化への気づきにもつながっています。働き方改革及び工事円滑化の取り組みは、まだまだ過渡期です。書類の要否などの判断には個人差が生じてしまうため、積極的に所員へ「それは省力化できないか?」と確認するなど、個人の意識に定着させる努力を重ねています。

四国支社 香川高速道路事務所 所長 石黒 政幸



工事の安全管理 ～重大事故の防止を徹底～

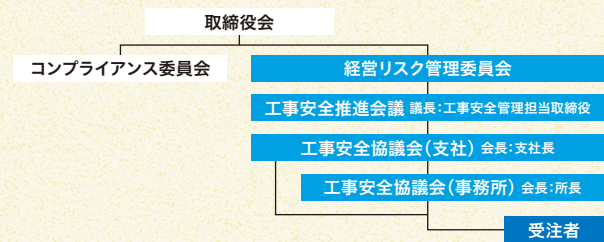
当社グループでは、全ての工事において安全を第一に考え、「安全と品質を確保したうえで、工期内に工事を完成させ、社会に貢献する」という受発注者共通の目標のもと、社会から信頼される会社であり続けられるよう、工事安全管理に取り組んでいます。2016年の新名神建設工事における有馬川橋橋桁落下事故を契機に、「工事安全管理規程」を制定し、受発注者が協力して、工事着手前に重大事故リスクを洗い出し、必要な予防措置や是正措置などの安全対策を確認したうえで、工事に着手する安全管理を推進しています。



現場での安全パトロール

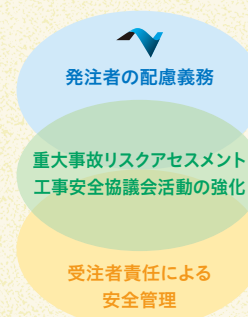
工事の安全管理体制

工事中事故を経営リスクとして捉え、経営リスク管理委員会内に工事安全推進会議を設置しています。全社的な情報共有による安全施策の水平展開や意見交換、安全技術の検討を行い、工事安全レベルの向上を図っています。

工事安全標語を用いた
安全啓発ポスター

重大事故リスクマネジメントシステムの着実な運用

『受発注者一体となりリスクコミュニケーションを行い、安全な現場を目指す』ため、重大事故リスクアセスメントを軸とした、重大事故リスクマネジメントシステムを着実に運用し、工事中事故撲滅に向けた安全管理に努めています。



「工事安全誓いの日」

新名神高速道路有馬川橋橋桁落下事故のあった4月22日を「工事安全誓いの日」と定め、4～5月に重点的に工事安全性向上の取り組みを実施。



有馬川橋事故の記録映像を視聴

社員教育

階層別研修や外部講師を招いた講演会等で、知識向上と意識高揚を図る。



工事安全管理責任に関する弁護士講義

工事における重大事故の連鎖を防ぐための緊急対応

2025年1月の中国道鷹の巣橋吊足場崩落事故をはじめ、工事における重大事故が短期間に続発したことを受け、工事の安全管理の徹底について、今一度受発注者間で確認を行い、安全対策を強化しています。



緊急工事安全推進会議



受発注者による緊急安全大会

- 全ての工事において工事中事故の再発防止及び安全点検を指示
- 全支社において当社及び受注者による緊急安全大会を開催し、事故概要や再発防止策の共有並びに工事安全の取り組みと安全意識の高揚を図る討議を実施
- 重大事故発生工事の施工会社トップに対し下記安全対策の徹底を強く要請
 - トップからの指示により安全総点検及び協力会社を含めた安全確認を実施すること
 - 元請と協力会社とのコミュニケーションをしっかりとること
- 緊急の工事安全推進会議を実施し、社内で事故の詳細や再発防止策を共有
- 社員に向けて、社長から「工事安全に関する緊急メッセージ」を発出

工事安全に関する緊急メッセージ

2025年2月20日 代表取締役社長 芝村 善治

当社の工事安全の取り組みについて、過去に新名神建設工事での事故により作業員の尊い命が奪われ、交差する一般道の長期間にわたる通行止めといった重大事案に起因し、計画段階における受発注者一体となった重大事故リスクアセスメントを策定し、着実に運用してきたところであります。そのような中で、令和7年に入り、上部工工事に起因する吊り足場崩落事故での作業員の死亡・重傷事案や作業員の受傷はなかったものの、送電線からの放電、仮設クレーンの滑走及び多軸台車移動時の橋桁横転事案などの上部工工事での重大事故が続発しました。これらの事故発生を受け、緊急の総点検、安全大会や必要に応じて原因究明のための有識者会議を実施し、また、連続して発生した同種の工事中事故を繰り返さないため事故原因、再発防止策などを逐次、社内及び当社発注のすべての工事受注者に情報共有するとともに、当該事故発生の上部工工事受注者のトップに対して、受注者自らの取り組み、現場作業員とのコミュニケーションの更なる強化を要請したところであります。この度の工事中事故は、施工計画書等にない作業を行ったり、また、作業手順を省略したことなどによるものであることから、引き続き重大事故リスクアセスメントを着実に運用するとともに、受注者に対して、協力会社との一層のコミュニケーション向上を図り、各現場の受注者と協力会社で具体的な安全対策や安全意識の定着に必要な対策についての意見交換と対策の着実な履行を行うよう要請し、我々発注者はその実施状況の確認を行うことで、重大事故の発生を防止するようお願いします。



安全・安心

社会インフラとしての責任を自覚し、
安全・安心を最優先に、事業を行っています

中国道(作東IC～美作IC)吉野川橋の床版取替工事。



工事規制・
通行止め情報



Highway
ハイウェイ交通情報サイト
リアルタイム交通情報

スマホアプリ



ウェブサイト



X



今も、将来にも、100%の安全・安心を

高速道路の保全



時代の変化に応える 維持・管理の進化

快適な走行環境を守り、高速道路を将来にわたって健全な状態に保つためには、構造物等の状態を正確かつ迅速に把握・診断し、いつどのような対策を実施するのか、または監視していくのかなど、適切な維持補修計画を策定し実行することが重要です。当社グループでは、点検・診断・補修・記録／蓄積の一連のサイクルである「保全事業システム」の確立と高度化・効率化を推進しています。



メンテナンスにかかる仕事量が増大

近い将来、管理延長は約3,680kmに拡大

現在の業務サイクル・品質の維持が困難

10年後には高速道路の3割以上が経過年数50年超え

DXを実現する4つの柱で、業務効率化を図る

01 機械化

スマートデバイスの活用で
安全かつ効率的に仕事をこなす



02 自動化

AI・BI・RPAとの協働で
手間のかかる作業を軽減する



03 システム化

システム開発・データ連携で
情報を使いやすくする



04 マップ化

GISによる見える化で
意思決定のスピードを上げる



- DX(Digital Transformation): デジタル技術を活用して、業務そのものやプロセスを変革すること
- AI(Artificial Intelligence): 人工知能
- BI(Business Intelligence): システムに蓄積した膨大なデータを可視化するツール
- RPA(Robotic Process Automation): 定型的に反復する事務作業を高効率で処理するソフトウェアロボット
- GIS(Geographic Information System): 地図上で位置や空間に関する情報を管理・分析するシステム
- NDO(Nexco Data Ocean): 当社の維持・管理に関するデータベース

就労支援×高速道路の維持管理

当社グループでは、障がいのある方の活躍を支援することを目的に、高速道路の維持管理に関する軽作業等を障がい者支援施設に委託しています。

徳島道 徳命高架橋における草刈作業
(西日本高速道路エンジニアリング四国(株))



TOPICS

点検手法のDXから、

点検・補修サイクル全体のDXへ

高速道路の構造物等の点検は、これまでの技術開発により、赤外線調査や損傷状況のAI診断、ドローン(UAV)での点検の導入など、点検手法の高度化・効率化が進んできました。
2024年度は、そうした点検で得られた記録や診断結果を用いて、補修計画を立て、現地で補修を行い、補修実績を記録し、次の点検計画へつなげていくという、保全事業システムのプロセス全体の業務効率化につながる「点検補修管理システム」のリニューアルを行いました。

点検手法のDX事例

打音点検範囲を削減する次世代赤外線画像判定システム「Jシステム Evolution」

一度で撮影
可視画像
赤外線画像

ドローンによる
鋼橋の点検

グループ全体の業務を効率化する「点検補修管理システム」

構造物等の詳細点検や日常点検等における計画・記録・補修計画などを効率化するため、点検計画から補修完了までを一元的に管理できるよう、2024年6月にシステムを全面リニューアルしました。

点検担当者の声 点検の精度も向上



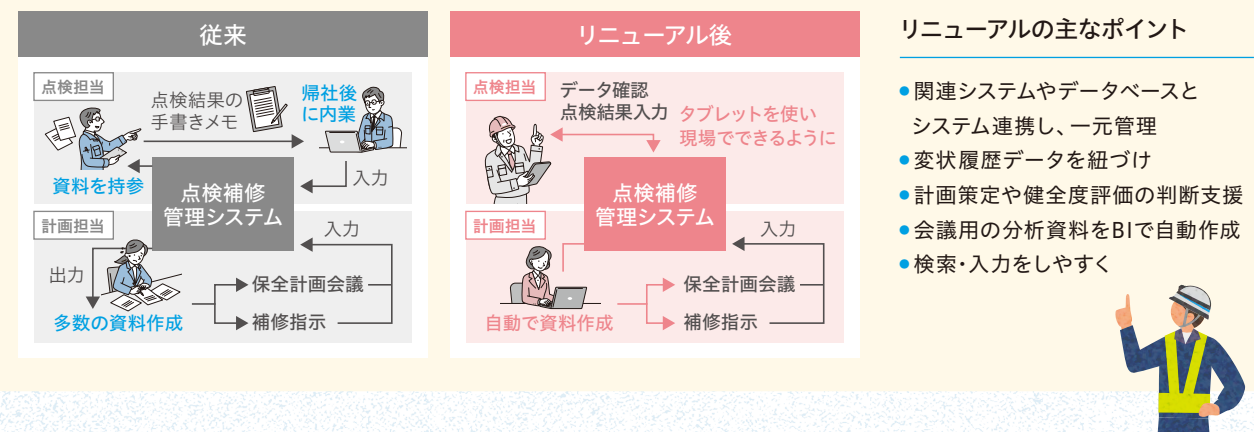
現場で点検結果をタブレットに入力できるため、内業の負担が減りました。また、現場で前回点検時の写真や変状概要が確認できるため、正確な損傷位置の把握や、前回点検からの劣化進行具合の確認等が容易になり、再点検の防止および点検の精度向上につながっています。

西日本高速道路エンジニアリング中国(株)
広島保全技術事務所 保全第二課 清水勇司

計画担当者の声 補修までの時間が短縮

点検計画や会議資料をエクセルで作成していた頃に比べ、年度や工事毎の補修計画策定・資料作成がスムーズになり、補修指示までの時間が短縮されています。その時間で損傷現場に行き、原因究明や補修方針の決定ができるため、効率化にもつながります。

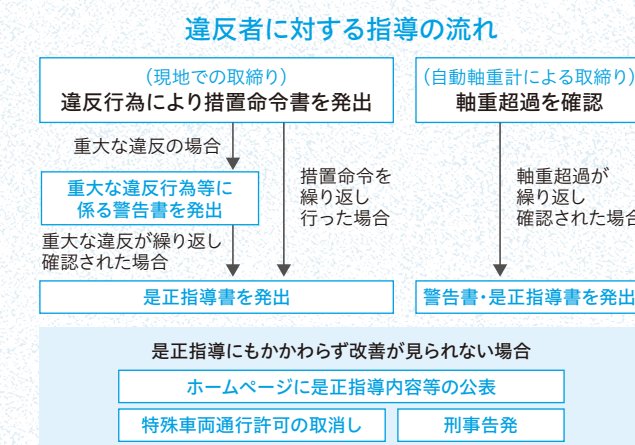
九州支社 大分高速道路事務所
保全計画第一課 奥原 瑠依



通行車両による 道路へのダメージを減らす

重量超過等の法令違反車両の取締り

重量超過等の違反車両の走行は、高速道路の損傷や老朽化を加速させる要因となっており、また、パンク等により交通事故の原因にもなります。
当社グループでは、高速道路を永く、安全に通行していただけるよう、法令違反車両に対する指導・取締りを行い、特に常習的・悪質な違反者に対しては、当社ウェブサイトでの是正指導内容の公表や警察への告発を行っています。



100%の安全・安心を支え続けるために

高速道路 リニューアル プロジェクト



高速道路
リニューアル
プロジェクト
特設サイトは
こちら



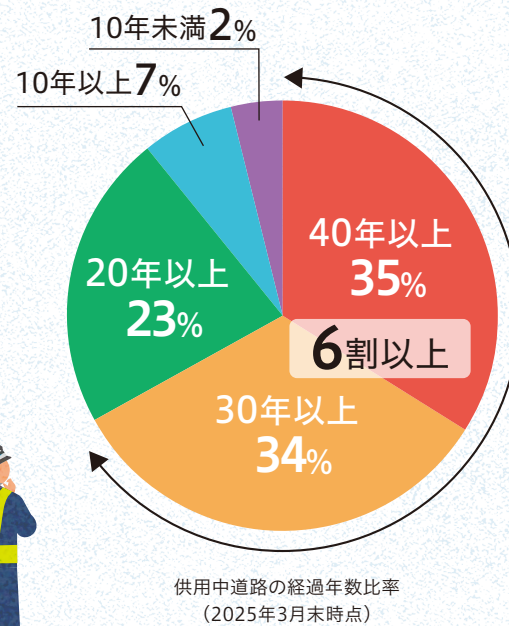
いま対策を行えば、 高速道路は“安全に長生き”します

1963年、日本で最初的高速道路である名神高速道路(栗東IC～尼崎IC)が開通してから60年が経過し、現在、当社が管理する高速道路のうち6割以上が供用から30年を超えました。

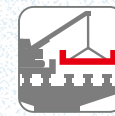
経過年数の増加や、大型車交通量の増加、車両総重量の増加、凍結防止剤の散布などにより、道路の老朽化や劣化が進行しています。当社グループでは、高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持していくために、2015年から「高速道路リニューアルプロジェクト」を実施しています。

2025年7月以降に大規模な交通規制を伴う リニューアルプロジェクト

橋を架け替えるなど、大規模な工事となるため、通常の補修工事よりも長期間の交通規制が必要です。



主な工事内容



橋梁の床版取替

損傷した鉄筋コンクリート床版をより耐久性の高い床版に取替



床版取替前(コンクリート床版下面)



床版取替後(プレキャストPC 床版下面)

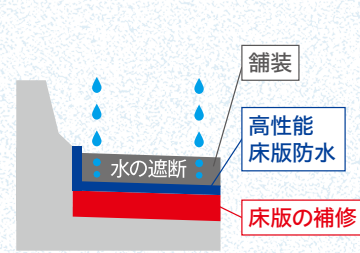


床版取替状況

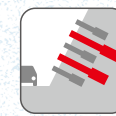


橋梁の床版修繕

損傷したコンクリート床版の厚さを増す補修や、水がしみ込まないための高性能床版防水を施工

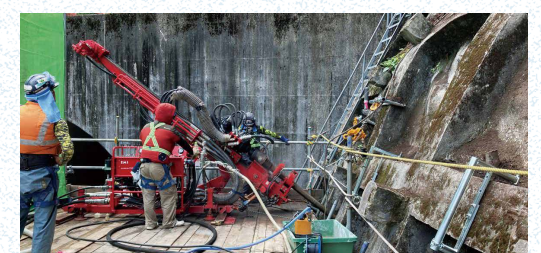


高性能床版防水施工状況



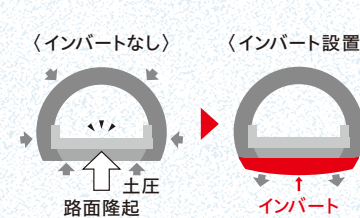
のり面グラウンドアンカー設置

のり面の安定性を高めるため、追加のグラウンドアンカーを設置



トンネルインバート設置

山の性質が悪く、経過年数の増加に伴い過度な力がかかっているトンネルを、リング状のより強い構造とすることで安定性を向上



既設コンクリート舗装の撤去状況

担当者の声 **4車線化で完成したトンネルを活用し工事着手**

西九州道 天神山トンネルでは路面隆起による「盤ぶくれ」が発生しています。4車線化工事により新たなトンネルが完成したため、既設トンネルを通行止めにし、インバート設置工事を進めています。

九州支社 佐世保工事事務所 舗装工事区 蔵田 祥之



舗装路盤部の高耐久化

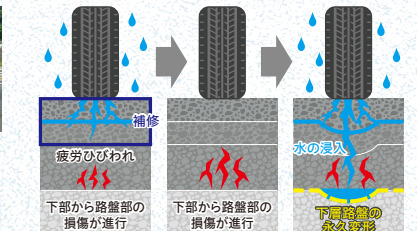
変状が生じている路盤を、耐久性に優れた路盤材料に置き換えることで長寿命化を図る



工事の様子



工事完了後



担当者の声 **お客さまへ、スピード感のある工事の情報提供**

舗装の高耐久化工事を昼夜連続規制で施工しています。管内では交通規制に伴う渋滞が頻繁に発生するため、民間プローブデータを活用したシステムと連携し、特設のウェブサイトや現地に配置した簡易LED情報板へ渋滞発生状況や通過所要時間などお客さまの安全で快適な走行に役立つ情報の迅速な提供に努めています。

中国支社 周南高速道路事務所 改良課 山本 涼

【舗装の高耐久化のイメージ図】

工事渋滞による社会的影響を抑えるために

可能な限り通行帯を確保できる工法の採用

床版取替工事などの大規模なリニューアル工事の場合でも、現場の交通状況を踏まえて、交通規制の規模を抑えられる工法を選定しています。

担当者の声 半断面での床版取替による変則的な対面通行規制を採用し、山陽道の渋滞を回避

広島道(広島JCT～広島西風新都IC)伴高架橋上り線の床版取替工事では、工法検討時に、片側一車線の対面通行で工事をした場合の渋滞予測を算出した結果、広島市内から広島西風新都ICの工業団地等への通勤利用が多いため、平日の通勤時間帯に上り線での渋滞が予測されました。そこで、工事渋滞が東西の物流を担う山陽道まで波及しないよう、床版を半分に分割し、半断面で順次床版取替を行い、上り線2車線・下り線1車線を確保しながら施工する変則的な対面通行規制を採用しました。また、ソフト面でも、迂回広報の強化や工業団地等への通勤時間帯変更の協力依頼なども行った結果、8カ月間の工事期間中、目立った渋滞もなく工事が完了。JCTに近接しているため、計7ステップの規制切替を通行止めにより行う必要があり、事前調整や工程管理が大変でしたが、すべての規制ステップを計画通り無事に終えたときは達成感を感じました。

中国支社 広島高速道路事務所 改築課 横山 功基

工事広報の強化

工事渋滞を抑制するために、工事による車線規制などの日程や迂回ルート、渋滞予測などの情報発信を強化しています。特に影響の見込まれる工事では、特設のウェブサイトを開設するなど、きめ細やかな情報発信を行っています。



工事規制・通行止め情報



特設ウェブサイト例

施設設備のリニューアルによるメンテナンス性の向上

新型低位置照明の開発・導入

従来は、高い位置から広く路面を均一に照らすことができるポール照明が主流でした。設置高が12mあるので高所作業車によるメンテナンスが必要だったため、広スパン化を可能とした道路低位置照明灯具を開発しました。設置数が減り、更新コストが縮減でき、支柱がないため第三者被害リスクが低く、高所作業車を使用せずに効率的な保守作業が可能です。



従来のポール照明

新型低位置照明

路側設備の配置集約化

新設路線や設備が老朽化した区間では、非常駐車帯を大型化し、高速道路本線上にある非常電話や可変式速度標識、情報板などの設備を集約し、メンテナンス性を向上。



担当者の声 メンテナンスしやすい道路は、お客さまも走りやすい道路

中国道(吹田JCT～宝塚IC)のリニューアル工事に合わせて、新型低位置照明の導入と路側設備の集約化を行いました。メンテナンス性の向上は、直接的な維持管理コストやCO₂排出量の削減だけでなく、メンテナンス時の交通規制日数等の削減により、工事規制による渋滞削減にもつながります。

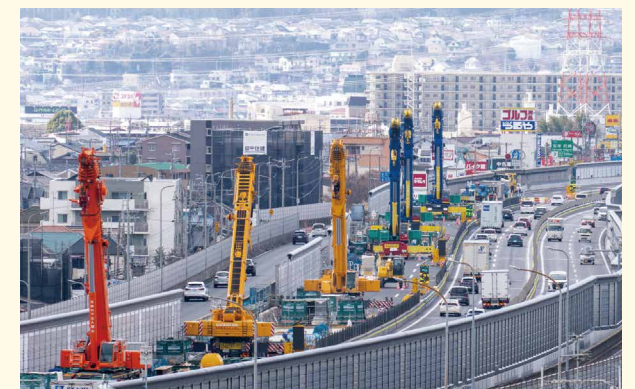
関西支社 阪神改築事務所 施設工事区 向井 瑞記



TOPICS

中国道(吹田JCT～宝塚IC)の橋梁の床版取替工事が完了

中国道(吹田JCT～神戸JCT)では、2020年からリニューアルプロジェクトを開始。都市部では前例のない大規模な終日通行止めをはじめ、終日車線規制や夜間通行止めにより工事を進め、2025年4月、吹田JCT～宝塚IC間の床版取替工事が完了しました。



荒牧高架橋 終日車線規制による橋梁更新



安倉高架橋 既設橋梁の解体・撤去



小浜橋 移動多軸台車による一括架設



宮の前高架橋 1000tクレーンによる一括架設

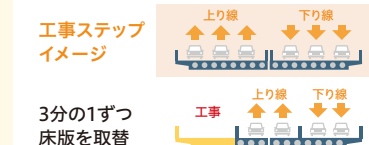
安全かつ効率的に工事を進めるための取り組み

工事期間の短縮や渋滞抑制のため、区間の特徴や環境に応じた工法の採用や、工事渋滞を回避するための積極的な広報展開、迂回促進のためのクーポンやアプリなど、様々な取り組みを実施しました。今回得た知見を活用し、引き続き当社管内全域で実施中のリニューアル工事を、安全・安心に進めていきます。

6車線ある幅員を活かし、車線規制で4車線を確保しながら順次施工

中国池田IC 上下線 宝塚IC

更新した橋梁の延長 3.6km 規制形態 終日車線規制



工事ステップイメージ

3分の1ずつ床版を取替

上下線の通行止めにより集中的に工を行い、工事期間を大幅に短縮

吹田JCT 上下線 中国池田IC

更新した橋梁の延長 4.8km 規制形態 終日通行止め



工事箇所

あらゆる箇所から同時に取替



ポイントをためておトクに買い物!! みちトフ迂回クーポン MICHITOKU UKAI COUPON



交通規制時間短縮のため、仮設防護柵を迅速に設置・撤去できるロードジッターシステムを採用

責任者の声 リニューアルした中国道で、大阪・関西万博を迎える

1970年の大阪万博の開催に合わせて開通し、日本の暮らしと経済を支えてきた中国道(吹田JCT～宝塚IC)のリニューアル工事を、2025年4月の大阪・関西万博が開幕するまでに概成できたことを嬉しく思います。特に、吹田JCT～中国池田IC間は、東西の大動脈を3年間にわたり断続的な終日通行止め(計7回、延べ293日間)を行うという、関西圏域では前例のない大規模なプロジェクトであり、生活や物流への影響が大きい工事でした。新技術の採用等による工事期間の削減や、テレビCM・迂回促進キャンペーン等の戦略的なソフト対策などが功を奏し、社会的な混乱が生じることなく無事完了することができました。工事にご理解・ご協力いただいた地元住民の皆さまや関係機関の皆さまに感謝申し上げるとともに、歴代の受発注者の努力の結晶として誇りに思います。引き続き、老朽化していく道路構造物に対して計画的に補修・更新等を行い、安全で快適・便利な高速道路空間の提供に取り組んでいきます。

関西支社 阪神改築事務所 所長 松井 隆行



多発する自然災害から、地域と暮らしを守り抜く

災害対応力の強化



橋梁の耐震補強

地震発生時、人命救助・被災地の復旧のためには、高速道路が緊急輸送路としての機能を速やかに確保することが重要です。2016年発生の熊本地震で得た教訓を生かし、災害時に速やかに機能回復できる道路とするべく、耐震補強対策を進めています。



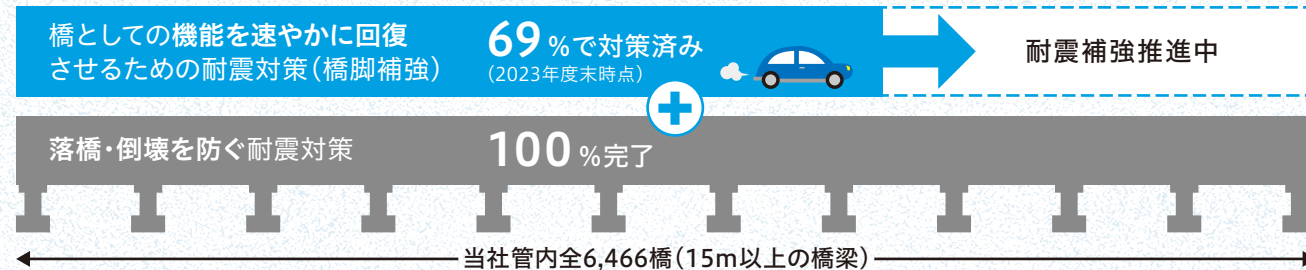
熊本地震で九州道を横架する県道が落橋



河川内での耐震補強工事



橋脚補強の施工状況



耐震対策の概要

補強前	補強後
橋脚補強 大きな地震力に対し橋脚を補強することで変形・破壊を抑制します。	支承受替 地震エネルギーを吸収し、構造系に作用する力を低減します。
落橋防止 想定を超える変位・変形が橋に生じた場合、落橋という不測の事態を防止します。	

高知道（新宮IC～大豊IC）久保ヶ内橋

大分道（湯布院IC～日出IC）福万川橋

中国道（北房IC～新見IC）下布瀬橋

更なる推進に向けて

- 耐震補強工事の入札不調対策、新技術の採用等の取り組みとともに、組織体制の強化により、耐震補強対策を加速化
- 上下線の橋脚が分離している橋梁では、どちらか一方の橋脚補強を優先するなどの手法を採用

高速道路の耐震補強実施計画（2024年1月公表）



情報提供例（デジタルサイネージ）

NEXCO西日本グループの災害対応タイムライン

豪雨や地震による被害を抑制するために、グループ一丸となって災害対応力の強化に努めています。

通常期 構造物の強化による被害予防

橋梁の耐震補強



耐震補強はP.25で詳しく紹介

津波一時避難場所の整備



徳島南部道本線横の津波一時避難場所（赤枠内）

のり面排水機能の強化



強化後の縦溝と集水ます

降雨災害時ののり面被害は、排水構造物が直接関与した崩壊が約半数を占め、さらに、その約半数が縦溝や集水ます等の合流部で発生。これらを踏まえ、高速道路リニューアルプロジェクト（P.21～24）の中で、のり面の排水構造物の大規模修繕に取り組んでいます。

災害対応訓練

交通機能確保等の社会的役割を果たすため、防災業務計画の整備や防災訓練等、グループ一丸となって、関係機関と連携し、ソフト面の災害対応力を強化しています。



グループ会社や関係機関との合同による段差復旧訓練



- ・大規模災害発生時における相互協力に関する協定（自治体）
- ・津波緊急避難における高速道路敷地の一時使用に関する協定（自治体）
- ・災害時の相互連携に向けた協定（電力会社）
- ・災害時における総合通信局との相互連携に関する協定（総務省各総合通信局） など

連携協定



季節前の準備



降雨出水期前の防災会議



資器材の準備

過去の災害の勉強会



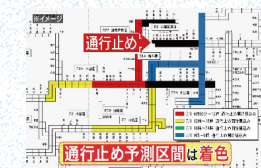
次世代へ災害経験を継承



気象予測等に応じて防災体制を構築強化

お客さまへの情報発信

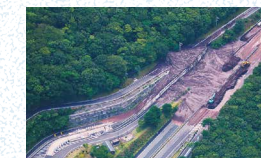
事前通行止め等による被害抑制



テレビCMやウェブサイト、SNS、関係機関との合同記者会見等による情報発信



2024年8月29日に発生した台風10号による大分道の被災



由布岳PA付近
区域外からの土砂流入
（5日後に応急復旧し通行止め
暫定開放。11日後に本復旧し
全面開放）



近年、激甚化・頻発化する集中豪雨や台風等に対し、災害対策を行うとともに、お客さまへ通行規制に関する実施状況等の情報を積極的に発信しています。

臼杵IC～津久見IC
切土のり面の崩壊
（約2ヵ月後に本復旧）

担当者の声 ドローンを活用した早急な被害把握



ドローン撮影は、迅速かつ安全に配慮しながら広範囲にわたり撮影することが可能であり、災害時に被災箇所状況を容易に把握することが出来ます。台風10号による災害発生時は、天候の回復後、臼杵IC付近と由布岳PA付近の被災状況を空撮し、復旧に向けた情報収集を行いました。また、復旧工事着手後は進捗状況の撮影も実施。引き続き、訓練を重ね、災害発生時の早期復旧に貢献できるよう日々精進していきます。

西日本高速道路エンジニアリング九州（株） 別府支店 点検課 岡 凜太郎



台風10号での空撮の様子

24時間365日、安全で、円滑な高速道路へ

交通安全



24時間体制での交通管理

24時間365日の安全・安心を守るため、道路管制センターと交通管理隊が、24時間体制で道路上の各種設備や道路巡回により情報を収集し、事故・落下物等への緊急対応やお客さまへの情報提供を行っています。

責任者の声 隊員の安全は、お客さまの安全

交通管理隊の業務は、本線上での事故対応など危険が伴います。入社後1ヵ月間の研修では、隊員一人ひとりの成長に寄り添い、短期間で自身とお客さまの安全を担保できる知識とスキルが身に付くプログラムにしています。また、安全確保の技術に加え、様々な状況におかれたお客さまに親身に寄り添える隊員の育成を心掛け、お客さまに安全と安心を届けられるよう、日々奮闘しています。

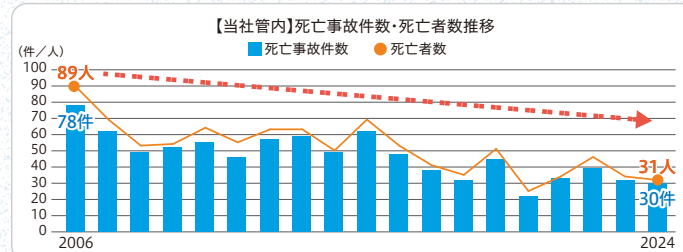
西日本高速道路/パトロール関西(株)
事業部 安全教育課 課長 西野 仁



高速道路走行中に落下物等の道路異常を発見した際は、
道路緊急ダイヤル#9910へ

安全運転の啓発

交通事故の根絶には、ドライバーをはじめとするお客さまのご理解・ご協力が不可欠です。当社グループでは、ステークホルダーの皆さまとともに、安全な高速道路を目指すため、高速道路内外での交通安全広報・キャンペーン等を推進しています。



死亡事故件数は徐々に減少していますが、未だ多くの尊い命が失われています。

SNDプロジェクト

—交通事故をゼロにするための危険運転撲滅プロジェクト—

当社と阪神高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)、(株)エフエム大阪の4社共同で、高速道路での交通事故につながる「ながら運転」による危険運転を撲滅し、交通事故ゼロを目指すべく、「STOP! NAGARA DRIVING PROJECT (通称SNDプロジェクト)」を推進しています。



ともに行動・応援
していただける
サポーター募集中

メッセージ
キャンペーン
グランプリ作品



気になるなあ! 見たいなあ!
でも本当にみたいのは
未来の私と家族の笑顔。

わき見・よそ見
しながら運転



疲れながら運転
居眠り運転など



間違いながら運転
逆走、不注意の運転ミスなど



イライラしながら運転
あおり運転など



逆走対策

高速道路での逆走は、死亡事故等の重大な事故につながる可能性が高く、正しく走行している車両をも巻き込む可能性のある極めて危険な行為です。「2029年までに逆走による重大事故ゼロ」を目指し、効果的な対策を見定め、高速道路での逆走事故の撲滅に取り組んでいます。

技術公募による逆走対策

逆走対策をより一層推進するため、技術公募を行っています。今後、道路上のカメラで検知し逆走車両及び順走車両に注意喚起する技術など、最新技術も取り入れた対策を行っています。

啓発用教材の一般公開

NEXCO 3社による「無くそう逆走」の取り組みでは、企業・団体や地域コミュニティにおける交通安全講習会などで使用していただける教材として、高速道路の逆走防止啓発の動画教材などをHPで公開しています。

- ・年間**80件程度**の逆走事案(事故または確保)※事故に至るのは10件程度
- ・65歳以上の**高齢者によるものが7割**近くを占める
- ・逆走事故は、死傷事故・死亡事故となる割合が高い
(高速全事故に対して、死傷事故**5倍**、死亡事故**40倍**)



過去の技術公募により採用した逆走対策



動画教材などは
こちら

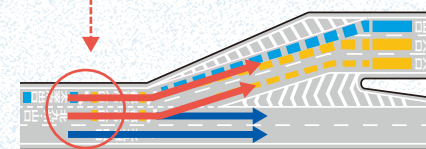
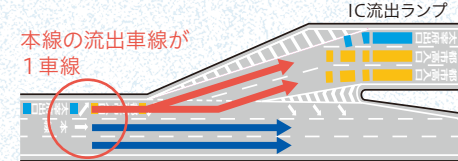


渋滞対策

ハード対策 渋滞しない道路を目指す

1. ネットワークの強化(P.31~38)
2. 車線拡幅(P.37,38)
3. 車線運用の変更
4. ETC利用率向上

渋滞状況を踏まえた車線運用の変更(太宰府IC)



流出車線を2車線に
することで渋滞を
9割削減

ソフト対策 交通分散を促す

1. ウェブサイト・テレビ・YouTube等による渋滞予測の広報
2. ウェブサイト及びスマホアプリによるリアルタイム交通情報の提供(アイハイウェイ)
3. 休日割引の対象日からGW、お盆、年末年始及び3連休等を除外(P.43)



正面衝突事故防止対策

反対車線への飛び出しにより正面衝突につながりやすい暫定2車線区間では、区画柵の設置・検証を実施しています。区画柵を設置済みの箇所では、正面衝突による死亡事故が0件となりました。(2025年3月現在)



ワイヤーロープ



センターブロック



センターパイプ

降雪時の交通確保に向けて

基本方針 人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する

冬の高速道路の安全・安心を確保するため、上記基本方針のもと、凍結防止剤散布作業や除雪作業等、高速道路の安全で円滑な交通確保に向けて各種対策に取り組み、大雪時の雪氷対策の強化を図っています。

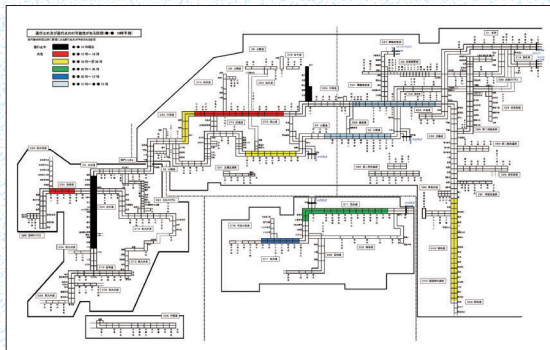
気象予測情報により大雪が予測される場合は、立ち往生車や滞留車が発生する前に躊躇なく通行止めを行うことを想定し、以下のオペレーションを基本として実施します。



大雪時のタイムライン

大雪時のタイムライン			高速道路利用者への呼びかけ					
段階	国・自治体・警察・気象台など	NEXCO西日本	記者発表	ウェブサイト	X LINE	高速道路影響情報サイト	テレビCM ラジオCM YouTube	道路情報板
1週間前	気象情報の共有など	通常の雪氷体制			冬装備 安全運転		冬装備 安全運転	冬装備 安全運転
3日前	情報連絡本部での連携	体制強化 ・応援派遣 ・協力要請 (災害協定事業者など)	大雪が予想される地域と時期 注意喚起・出控え・予想される通行止め区間				出控え (切替)	注意喚起
1日前	大雪に関する緊急発表		通行止め可能性区間と時間帯 ※概ね6時間毎に見直し					
降雪中	・情報の一元的収集・共有 ・関係機関での各種調整・協議 ・道路利用者や地域住民への 情報提供	立ち往生車・ 車両滞留発生前に 予防的通行止め 集中除雪	【通行止めの場合】 ・通行止め区間 ・作業状況・解除見込みなど				冬タイヤ装着/ チェーン携行 規制情報 通行止め等	

概ね2日前から通行止め可能性マップを公表



スマホアプリやSNSでは、ライブカメラや現地の作業状況などを配信



お客さまご自身の命を守るためにも、「大雪に関する緊急発表」や「大雪警報」等が出されるような大雪への警戒が特に必要な場合には、不要不急の外出をお控えいただくとともに、広域的な迂回、出発時間の変更などをお願いします。

お出かけ前のお願い

- ・お出かけ前には最新の交通情報を確認してください。
- ・冬の高速道路は、冬用タイヤで走りましょう。
- ・タイヤチェーンは常に用意しましょう。

荷主企業・運送事業者の皆さまへのお願い

大雪の影響に伴う広範囲の通行止めが予測される際には、気象予測等をご確認いただき、広域迂回の実施や通行ルートの見直し、運送日の調整などのご協力をお願いします。

走行中のお願い

- ・雪道の走行では、『急ハンドル』、『急加速』、『急ブレーキ』は厳禁です。速度は控えめに、車間距離は通常時より多めにとりましょう。
- ・インターチェンジ入口や本線等に設置された情報板及びハイウェイラジオにより気象状況等をお知らせしています。目的地までの情報に注意して走行してください。
- ・凍結防止剤散布や除雪作業を行っている雪氷対策作業車とは車間距離を十分にとり、後ろをゆっくりと走行してください。

TOPICS

名神・新名神では初となる「予防的通行止め」の実施 (2025年1月～2月)

2025年1月～2月にかけて襲来した寒波の影響に伴い、名神・新名神及び並行する国道との同時の予防的通行止めを実施しました。国土交通省・NEXCO中日本・関係府県・警察など関係機関一体となった対応により、大規模な車両滞留等を回避することができました。予防的通行止めは物流などへの社会的影響が生じるものではありませんが、引き続き「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する」という基本方針を遵守し、国民の皆さまへご理解・ご協力を求める広報活動を強化するとともに、当社グループ一丸となって通行止めオペレーションの検討をまいります。

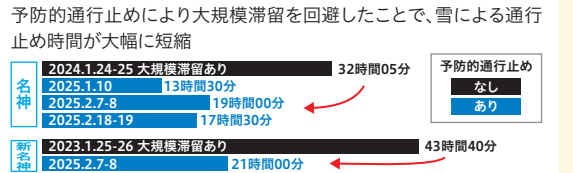


2025年2月4日～9日の大雪では、2月7日夜～8日夕方にかけて、名神(小牧IC～京都東IC)や新名神(四日市CT～草津CT)、並行する国道との同時の予防的通行止めを行い、大規模な車両滞留を回避

名神・新名神におけるこれまでの大雪対応

- 2023年 1月 大雪により新名神で大規模な車両滞留が発生
 - 12月 関係機関とともに**広域的な雪害対応の方針を公表**
 - 2024年 1月 大雪により名神で大規模な車両滞留が発生
 - 12月 **広域的な雪害対応の方針の改定を公表**
 - ・通行止め基準の見直し
 - ・通行止め区間の改善
 - ・行動変容を促す広報の強化
- 今後も継続して関係機関と連携し、対応方針の改善を実施します**

雪による通行止め時間(NEXCO中日本管内を含む)



運送業者の声 安全を最優先した運行計画が立てられるようになりました

従来は何か目的地まで向かうよう求められることがありましたが、事前に通行止めが決定されることで、無理な運行を避け、安全を最優先した計画を立てることが可能となりました。安全確保や業務の効率化にもつながっており、大変ありがたく感じております。

「お客さまの声」への投稿より抜粋



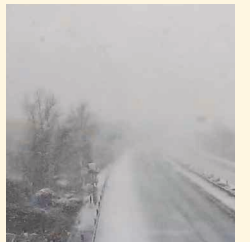
国土交通省等との合同記者会見

責任者の声 過去の教訓を活かした連携により、大きな混乱なく終えられました



2月7日～8日の大雪では、グループ一丸となって除雪対応をし、当事務所だけでも延べ320名・大型雪氷車両82台等が出動しました。3回に亘る名神等の予防的通行止め時は、過去事例に学び、関係機関一体でSNSや合同記者会見などによる積極的な広報を展開するとともに、事前準備や対策をしっかりと行ったことで、大規模渋滞などの大きな混乱もなく無事に乗り切ることができ、安堵しました。

関西支社 滋賀高速道路事務所 所長 溝口 淳司



実際の降雪状況(名神 黒丸PA)

スタックによる車両滞留への対応事例

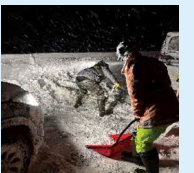
2025年2月7日15時35分頃、米子道(江府IC～蒜山IC)上り線で大車2台によるスタックが発生。すり抜けようとした大型車1台が更にスタック。通行止めとなり滞留車両が発生するも、乗員保護班総員約20名での対応等により人的被害もなく解消しました。



スタックした車両



滞留車両への物資配布



滞留車両の周りは人力除雪

責任者の声 人的被害の最小化に、グループ一丸となって取り組む

関係機関と合同による大雪立ち往生対応訓練などの事前準備により、通行止め20分後には滞留車両への物資配布を開始し、車線閉塞の原因となった車両の排除も迅速に行えたものの、滞留車両約100台の流出には約3時間半を要しました。一度滞留すると除雪などに長時間必要となり、お客さまの人的被害にもつながりかねません。スタック車を発生させないためにも、冬用タイヤ装着に向けた広報強化を行うとともに、早期通行止めなど、引き続き、グループ一丸となって人命を最優先とした対応力の強化を図っていきます。

中国支社 米子高速道路事務所 所長 光田 剛史





ネットワーク の強化

地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献する
より安全で、使いやすいネットワークへ

新規建設事業中の新名神高速道路(八幡京田辺JCT・IC～
高槻JCT・IC)成合第一高架橋の橋梁上部工工事(張出架設
工法)。



建設進捗情報



スマートIC
設置情報



工事規制・
通行止め情報



ひと、モノ、未来をつなぐ

新規建設・6車線化

交通混雑の緩和、交通安全の確保、災害時の代替機能強化や地域活性化などを目的として、高速道路の建設を推進しています。



IC名称は仮称を含む

TOPICS

徳島道 全線開通から10年間の整備効果

徳島道は、1994年の藍住IC～脇町IC間の開通を皮切りに、2015年の鳴門JCT～徳島IC間の開通によって、全国の高速道路ネットワークと結ばれました。徳島道の開通により、所要時間の大幅な短縮による物流の向上、四国内外の交流促進や観光振興に貢献するなどの効果を生み出し、また高松道とのダブルネットワークによる安定性の向上など、沿線地域の経済・暮らしを支えています。

交通量推移と経済波及効果

利用交通量は開通から延伸を重ね、約10年間で累計7,800万台に到達
経済波及効果は、10年間で約3,000億円

所要時間・行動範囲の変化

徳島市から松山市までの所要時間を約110分短縮、
徳島市から高知市までの所要時間を約80分短縮(1991年比較)
高速バス利用者は年間200万人前後と、多くの方が利用

沿線の観光動態

観光客数は2,000万人前後を推移し、約4割が県外から来場
県西部では教育旅行受け入れ実績が増加し、
観光地をつなぐ主要アクセスとして寄与

地域生産活動と流通利便性の向上(農業・畜産業)

阿波尾鶏の出荷量は約8倍に増加(1995年度比較)

地域生産活動と流通利便性の向上(工業)

徳島県発着の貨物輸送において
自動車での輸送が約3倍に増加(1995年度比較)
徳島県の製造品出荷額が約2倍に増加(1994年比較)

災害時における徳島道の役割

南海トラフ地震発生時の広域進出拠点のほか、
津波緊急避難場所を備え、地域の防災機能の強化として貢献



1994年 藍住IC～脇町IC間 開通



徳島道の整備により、四国内の自動車による移動時間が大幅に短縮されました



1 新名神高速道路

八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC 10.7km(6車線での新規建設)

大津JCT～城陽JCT・IC 25.1km(6車線での新規建設)

甲賀土山IC～大津JCT 22.5km(6車線化)

新名神高速道路建設事業のうち、大津IC～城陽JCT・IC間については、2024年12月に完成時期の見直しを公表しました。引き続き、地元行政や物流デベロッパー等関係機関と密に連携を取りながら、工程の精査を継続し、工事を推進していきます。



新名神高速道路特設サイト

整備効果

- 国土軸のダブルネットワーク化
 - 名神・東名高速とともに国土軸の骨格を形成
 - 事故・災害時における代替路として機能
- 高速走行による所要時間の短縮及び定時性の確保
- 物流の生産性の向上
 - ダブル連結トラックやトラック隊列走行などの次世代物流システム実現に向けた環境を整備
- 観光産業・沿線地域の活性化



枚方トンネル掘削の準備工



建設中の宇治田原ICと物流施設などの開発状況



甲賀土山IC～信楽IC 6車線化工事



富野高架橋 上部工工事

責任者の声 工事の安全を最優先に、1日も早い開通を目指します



新名神高速道路(大津JCT～城陽JCT・IC、八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC)は、工事最盛期を迎えており、全線にわたり鋭意工事を推進しております。新しく建設するIC周辺では、新たな商業施設や次世代基幹物流施設が計画されており、地域の方々からは早期の開通を期待されています。地域にとっても重要なプロジェクトを担う者として、重大事故を起こさず、無事に完成させ、そして地域の皆さまに喜ばれる形で開通を迎えられるよう、引き続き、工程精査を継続しつつ、工事の安全を最優先に、1日も早い開通を目指します。

執行役員 関西支社長 諸富 正和

担当者の声 伝統楽器の素材「ヨシ」の生育環境を守る



淀川橋下工区と鶴殿ヨシ原

建設中の淀川橋は、淀川河川敷の鶴殿ヨシ原を通過します。ここでは良質なヨシが自生しており、雅楽の楽器「箏(ひちりき)」の素材として、宮内庁にも珍重されています。歴史的・文化的に重要な鶴殿ヨシ原の環境保全と新名神建設事業を両立させるため、2013年に有識者検討会を設立し、環境調査やモニタリング等を行いながら、慎重に施工を進めています。

関西支社 新名神大阪事務所 枚方工事区 北里 泰啓



2 神戸西バイパス(第二神明道路北線) 永井谷JCT～石ヶ谷JCT 6.9km



奥から第三・第四・第五平野西高架橋 下部工工事

整備効果

1. 交通混雑の緩和による第二神明道路の事故減少
2. 物流ネットワーク拡充による東西方向の物流効率化
3. 第二神明道路の代替路の確保

担当者の声 地域の方々と対話を大切に工事を進める

工事を担当している第四・第五平野西高架橋は、住宅・通学路が隣接しているため、工事の騒音や振動の低減、通学時の安全確保について、地域の皆さまと対話をしながら影響を最小化できるよう対策に取り組んでいます。これからも安全と地域の皆さまとの対話を大切にしながら事業を進めていきます。

関西支社 第二神明道路事務所 明石工事区 飯田 祥也



3 大和北道路(京奈和道) 奈良IC～郡山下ツ道JCT、 奈良北IC～奈良IC 12.4km

整備効果

1. 交通混雑の緩和・交通円滑化
2. 交通の転換による、国道24号の交通事故減少
3. 移動時間短縮による観光行動の支援
4. 沿線地域の整備による産業の活性化



発志院北第一高架橋 下部工工事

整備効果

1. ネットワークの拡充による大阪都市圏の交通円滑化
2. 並行する都市高速における通行規制時の迂回路確保及び災害時の避難・救護活動を支える広域的な輸送路としての機能確保
3. 物流の効率化による沿線地域への新たな企業進出等、地域経済の活性化

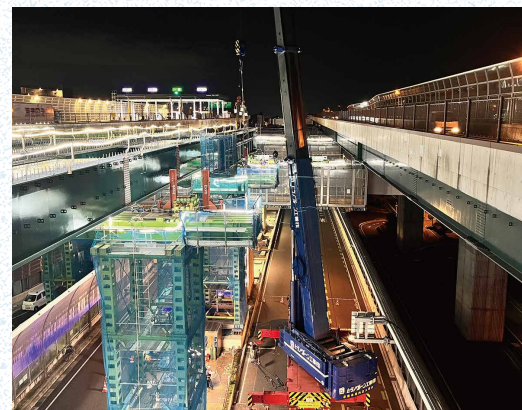
担当者の声 近接する重要インフラと密に連携

当事業は、周辺に近畿道、府道大阪中央環状線、国道1号バイパス、大阪メトロ長堀鶴見緑地線、大阪モノレール延伸部等の重要インフラが近接しています。関係機関と綿密な施工調整を行い、橋桁架設は夜間に行う等、周辺への影響を考慮しながら事業を進めています。

関西支社 新名神大阪東事務所 門真鶴見工事区 樋口 廉



4 淀川左岸線延伸部 門真JCT～阪神高速接続部 1.1km



門真高架橋 鋼上部工工事

業界全体で「誰もがいきいきと働ける建設業界」を目指す

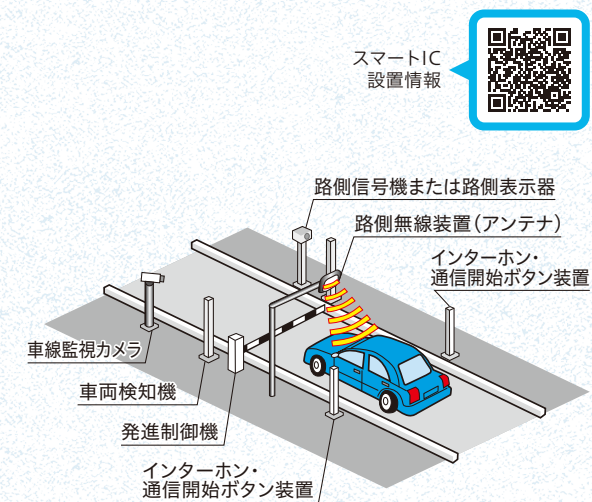
受発注者の若手女性技術者を中心に建設業のあり方を考える「女性技術者交流フォーラム」を、当社と日本建設業連合会で共催しています。女性技術者が当たり前活躍できる職場環境の創出は、男性や他の多様な人々にとっても働きやすい環境につながります。誰もがいきいきと働き続けられる建設業界を実現するため、業界が一体となり、偏見や差別の排除、キャリア形成支援、柔軟な働き方の提供など、職場環境の整備を行っていきます。



地域へのアクセス向上

スマートIC

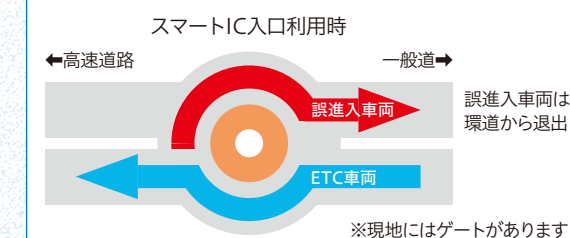
スマートICは、通行可能な車両を、ETCを搭載した車両に限定しているため、簡易な料金所の設置で済み、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。またスマートICの整備により、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路が更に利用しやすくなります。



2024年6月9日開通 九州道 小郡鳥栖南スマートIC



ICの出入り口には「環道型退出路」を採用し、ランプ形状をコンパクト化



スマートIC建設に合わせて、アクセス道路として福岡県・佐賀県により県道鳥栖朝倉線も整備(写真左で九州道をまたぐ道路)。物流の効率化や新たな企業誘致、雇用創出など地域産業の更なる飛躍が期待されます。



建設事業中スマートIC 13ヵ所(名称は仮称を含む)

地域の声 九州道 小郡鳥栖南スマートIC開通に寄せて

九州道 小郡鳥栖南スマートICは、全国初の2つの県にまたがるスマートICで、福岡県、佐賀県、小郡市、鳥栖市およびNEXCO西日本が2018年度から整備を進めてきました。開通によって周辺の産業団地や市街地と高速道路のアクセスが向上し、人流はもとより、物流の効率化が図られています。利用台数は当初の想定を上回っており、沿線地域における企業誘致や雇用の創出拡大、地域のシームレスな発展に大きく貢献することを期待しています。人・モノの移動をスムーズにするスマートICにより、国内外の企業から本県が選ばれる力を高め、世界に輝き、産業が育つ福岡県への歩みをさらに進めてまいります。



福岡県知事 服部 誠太郎



安全・安心の更なる向上を目指して

4車線化



建設進捗情報



暫定2車線区間の課題

速度低下・渋滞

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追い越しができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下し、渋滞が発生しやすくなっています。

→ 時間信頼性確保



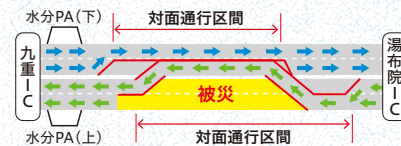
阪和道(印南IC～みなべIC)

通行止めの発生や長期化

- 事故や積雪等による立ち往生発生時に追い越しができず通行止めとなります。
- 大規模な工事を実施する際に、長期間の通行止めが必要となります。
- 災害発生時における全面通行止めの解除に時間がかかります。

→ ネットワークの代替性確保

「令和2年7月豪雨」の被災事例

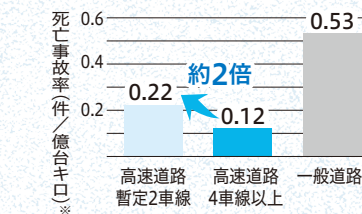


4車線区間では、上下線のいずれかが被災しても残る車線を対面通行とすることで、早期に交通機能確保し、復旧支援や緊急物資運搬等に大きく貢献できます。

正面衝突等による重大事故

反対車線と完全に分離する構造になっておらず、ひとたび事故が発生すると、正面衝突に発展する等により、死亡事故等の重大事故となるおそれが4車線区間と比較すると高くなっています。

→ 事故防止



※高速道路：H25-R3 高速自動車国道(有料)
一般道路：H25-R3 一般国道、主要地方道、県道、市町村道、その他道路

出典：自動車燃料消費量調査 月報の各年1～12月 高速トラカンデータ

事故防止の緊急対策として実施している区画柵の設置については、P.28へ

課題への対応 —4車線化—

暫定2車線区間における課題を踏まえ、お客さまの安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点からも、暫定2車線区間の計画的な4車線化を推進しています。



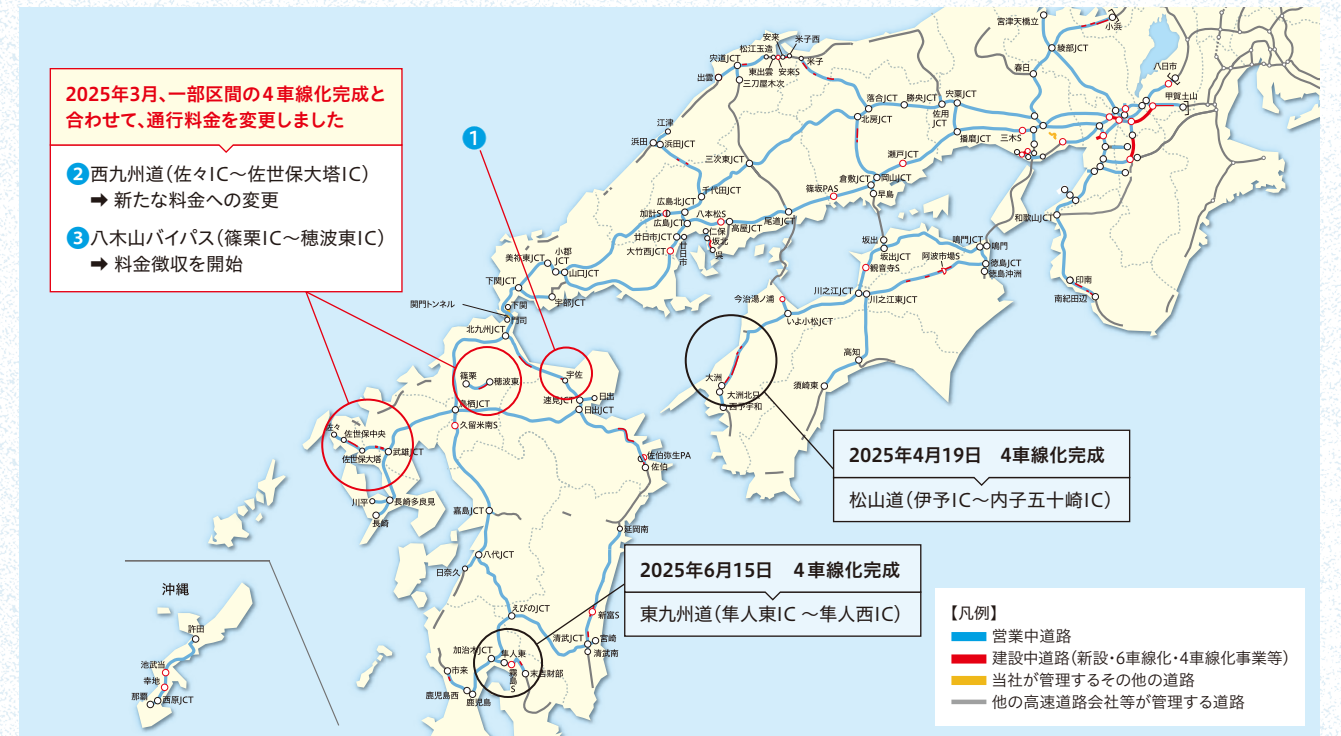
松山道(伊予IC～内子五十崎IC) 2025年4月 4車線化完成



鹿児島道路(美山IC～伊集院IC)



米子道(蒜山IC～江府IC)



2024年度の主な完成箇所

① 東九州道(宇佐IC～院内IC)本線部分
2025年3月7日 4車線化完成



香下大橋付近

② 西九州道(佐々IC～佐世保中央IC)
2025年3月23日 4車線化完成



真串川橋付近

③ 八木山バイパス(篠栗IC～筑穂IC)
2025年3月30日 4車線化完成



新たに設置した篠栗本線料金所

土砂の海上運搬による環境負荷の軽減 広島呉道路(クレアライン) 4車線化工事

広島呉道路4車線化工事における切土・トンネル掘削等による建設発生土約100万m³は、沿岸部という呉の地域特性を活かし、呉ポートピアパークを積み込み拠点として、土運搬船による海上運搬により広島県港湾埋立事業(出島地区)に搬出しています。

担当者の声

CO₂排出量を4,000t削減

海上運搬は一隻で約1,200m³(ダンプトラック約280台分)の土砂を運ぶことができ、多数のダンプトラックによる一般道を使用した陸上運搬に比べ、安全かつ効率的な運搬ができるだけでなく、累計約4,000tのCO₂排出量削減にも効果があると試算しています。

引き続き、工事の安全を最優先に、災害に強い広島呉道路を目指して4車線化工事を進めていきます。

中国支社 広島工事事務所 呉工事区 金氣 陽大



土砂の海上運搬拠点(呉ポートピアパーク)



坂町植田地区～水尻地区における切土工事

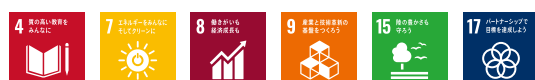


快適に、豊かに

ひと・モノを快適に運び、
毎日の生活と、社会、地域を豊かに



2024年12月にリニューアルオープンした九州道 北熊本SA
(上)店舗外観。熊本城の石垣「武者返し」のデザインを取り入れるなど、熊本の魅力がぎゅっと詰まった店舗に生まれ変わりました。



料金・交通情報



SA・PA情報



いつでも、誰もが使いやすい高速道路へ

料金・ETC



料金・交通情報



深夜割引の見直し

— 割引適用待ちの車両滞留の解消やトラック運転者の負担軽減 —

見直しの背景

深夜割引は、一般道の沿道環境改善のため、交通容量に余裕のある高速道路の夜間利用促進を目的とした割引です。

見直し前の深夜割引は、0～4時の時間帯に高速道路をETC走行する車両に適用されることから、0時前に料金所前で深夜割引適用待ちをする車両の滞留や、運転者等の労働環境悪化などが課題となっていました。そのため、以下のとおり、深夜割引の見直しを行います。変更の適用時期は当社ウェブサイトをご確認ください。



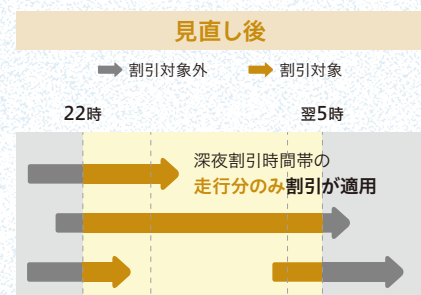
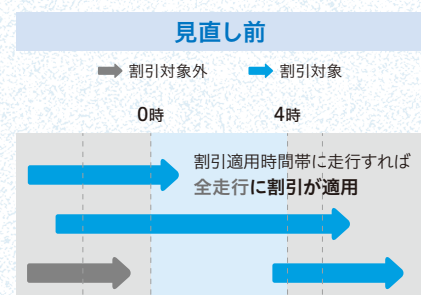
深夜割引変更
特設サイト



深夜割引変更のポイント

POINT1

深夜割引の時間帯に
走行した分のみ割引

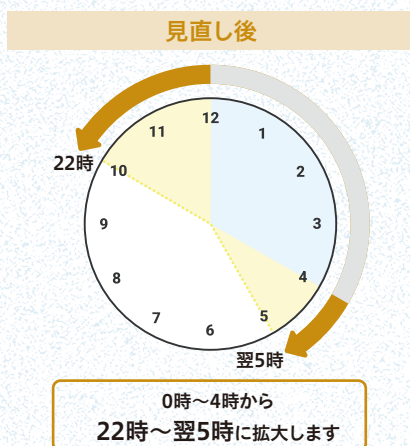
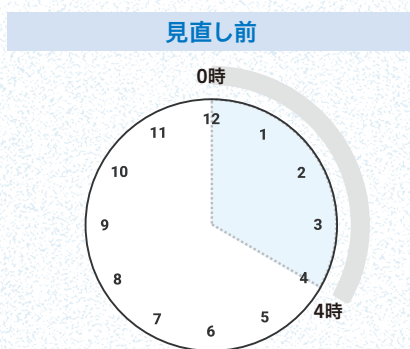


$$\text{深夜割引の還元率} = \left(\frac{\text{深夜割引適用時間帯の走行距離}}{\text{総走行距離}} \right) \times 30\%$$

※22時台流出は約20%

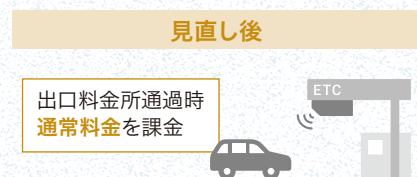
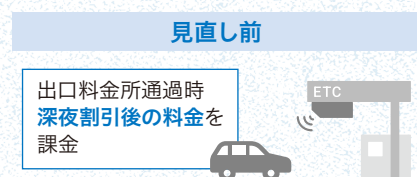
POINT2

深夜割引の時間帯が
3時間拡大(22時～翌5時)



POINT3

後日還元型の
割引制度へ変更



ETCマイレージサービス

還元額を翌月20日に付与

ETCコーポレートカード

当月ご利用分の請求時に
割引適用後の金額で請求



変更の詳細



速度超過や無休憩運転などの無謀な運転の抑止のため、上限距離を設定

割引時間帯の走行距離を増大させることを目的とした「速度超過」などの無謀な運転を抑止し、安全・安心に高速道路をご利用いただくために、車種区分等に応じて割引適用時間帯の走行距離に上限を設定します。また、無休憩運転の抑制のため、厚生労働省が定める連続運転時間の考え方を参考に、利用時間が4時間を超える場合は30分間の休憩時間を考慮して設定しています。

車種区分等	上限距離
軽自動車等／普通車／中型車／乗合型自動車	1時間あたり 105km
大型車／特大型車(乗合型自動車以外)	1時間あたり 90km

割引適用時間帯における利用時間が4時間を超える場合、休憩時間30分相当の距離を上限距離から減じます。詳細は当社ウェブサイトをご確認ください。



激変緩和措置

割引見直しによる長距離利用の通行料金負担増や、新たな交通集中を抑制することを目的に、激変緩和措置を実施します。

深夜割引見直し後の激変緩和措置

- 深夜割引適用車両のうち1,000km以上走行した場合、1,000kmを超える部分を割引対象走行分に追加
- 22時台に高速道路を流出した車両については、22時台に走行した分の還元率を最大20%

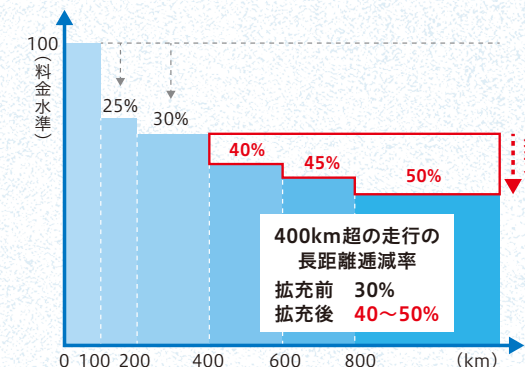


通行料金負担の増加の軽減のため、長距離通減制を拡充

深夜割引の変更による長距離利用の通行料金負担の増加を軽減することを目的に、400km超の走行を対象に長距離通減制を拡充します。

長距離通減制とは

NEXCO3社が管理する高速道路のうち対距離料金を適用する高速自動車国道の利用にあたり、利用距離に応じて通行料金を通減する制度です。(対距離料金を適用しない高速自動車国道、一般有料道路、他の高速道路会社が管理する高速道路は対象外であり、長距離通減の対象距離には含まれません。)



通勤パスの社会実験

— 多様化する勤務体系への対応と通勤時間帯の混雑解消 —

高速道路では、高速道路に並行する一般道における通勤時間帯の混雑解消のため「平日朝夕割引」を実施していますが、多様化する勤務体系や通勤時間帯に混雑している高速道路における交通分散の対応が必要となっています。そのため、2024年4月より、当社管内では香川県・長崎県の一部区間で、「通勤パス」の社会実験を実施し、平日朝夕割引の見直しに向けた試行・検証を行っています。



通勤パスとは

事前に車種・区間を指定してお申し込みいただくと、曜日や時間帯にかかわらず、月初から月末までの1ヵ月間、1日3回までの走行に限り、指定区間内の料金を最大50%割引の通行料金でご利用いただける割引です。

オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けて

休日割引適用除外

ー新たに3連休も適用除外日にー

休日割引については、観光需要平準化や交通分散のため、適用除外日を設定しています。2024年度までにお盆・年末年始・大型連休を適用除外日とした結果、渋滞量が減少する傾向が確認されました。一方で、他の3連休についても、連休後の土日と比較して交通の集中が発生していることを踏まえ、国土交通省と検討した結果、2025年度以降は、新たに3連休についても適用しないこととしました。引き続き、高速道路の渋滞対策にご理解・ご協力をお願いします。



以下の日程は休日割引が適用されません

- 3連休
- シルバーウィーク
- ゴールデンウィーク
- 年末年始
- お盆

詳しい日付はこちら



ドライブパス(周遊パス)の利便性と魅力の向上

観光振興と観光需要平準化の両立に向けて、ETC車限定で対象エリアの高速道路が定額で乗り降り自由となる「ドライブパス」については、以下の取り組みを行っています。

1. 全国のドライブパスを検索できるサイトを導入
2. NEXCO 3社での共通会員制を導入
3. 平日利用のETCマイレージポイント追加付与
平日のみの利用で販売価格の15%ポイントを追加付与
4. 自治体等と連携したドライブパスの販売拡充



自治体と連携した周遊プラン

ドライブパスの
申込専用サイト
「みち旅」



観光施設と連携した周遊プラン

担当者の声 ドライブパスで、観光をもっと楽しく

ドライブパスを企画するときは、高速道路料金がおトクになるだけでなく、お客さまにより地域を楽しんでいただけるものを目指しています。「とっとり満喫ドライブパス」では、鳥取県と連携し、観光情報サイト「とっとり旅」でテーマ別のモデルコースをご提案。さらに観光施設入館料の割引や特産品のプレゼント(抽選)などの利用特典も準備し、鳥取の観光を盛り上げられるよう、地域の方と一緒に作り上げています。



中国支社 保安サービス事業部 料金課
堤 大耀



ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化

新しいモビリティ社会に向け、お客さま・社会のニーズに
適応した料金収受を目指し、ETC専用化等の取り組みに
よるキャッシュレス化・
タッチレス化を推進します。

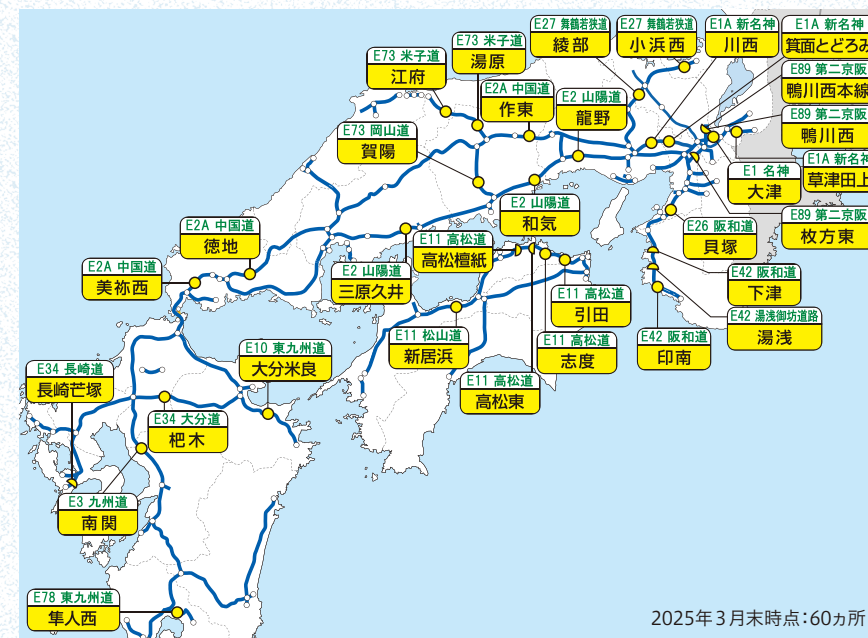
ETC専用
料金所



ETC専用化等の導入目的

- 空いている時間帯や経路の割引など柔軟な料金設定が容易となり、
混雑を緩和してお客さまの生産性向上に寄与
- 料金所係員の人員確保が困難になる中、ETCを活用することにより
料金所の機能を維持
- お客さまと料金所係員の接触機会を減らし、感染症リスクを軽減 等

2025年春から新たに32料金所がETC専用料金所に



2025年3月末時点:60カ所



ETC専用料金所の案内標示

ETC専用料金所に誤って進入された
場合はこちらのレーンをご利用くだ
さい。

サポート もしくは ETC サポート

※イメージです。



ETCの普及促進のための取り組み

●ETC車載器購入助成キャンペーンの実施



●ETCパーソナルカード

クレジットカードをお持ちでない方でも
デポジット(保証金)を預託いただくこと
で、ETCカードをご利用いただけます。

ETCパーソナルカード



チーフマネージャーの声 安心してご利用いただけるように

料金割引の見直しやETC専用化など、高速道路の利用方法は、年々進化しています。そのため、不安や疑問を伴ったお問い合わせをいただくこともあり、お客さまに寄り添った丁寧な対応を心がけています。お客さまセンターは、単にお問い合わせに 대응するだけでなく、お客さまから寄せられた声を社内の関係部署へ届けることで、より良い高速道路サービスの提供につなげる役割も担っています。これからも、お客さま対応品質の向上と各事業部との連携を深め、お客さまに安心して、快適にご利用いただける高速道路づくりに貢献していきます。

広報CS推進本部 広報CS推進部 お客さまセンター チーフマネージャー 置田 祐介



観光スポット×高速道路網 お国じまんデジタルラリー

各府県が選ぶ「ごじまん」の観光地やSA・PAに設置したGO!JIMANスタンプを集めて応募すると、抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえる「お国じまんデジタルラリー」。高速道路網を活用した地域への誘客促進・観光振興を行っています。



キャンペーン
公式サイト



西日本の
体験施設を
巡るコースが
新登場!

トイレのリニューアル

お客さまに快適で安心してご利用いただけるトイレを目指して、自然光を取り込んだ明るい空間の演出や、バリアフリー化、女子トイレ内へのパウダーコーナーの整備などに取り組んでいます。



女子トイレのパウダーコーナー
（九州道 北熊本SA（上））



空きブースが目でわかるランプ
（九州道 北熊本SA（上））

NEXCO西日本は、
お手洗いの **4C + 1E** への改修を進めています

Clear （明るく） 少ない電力で明るく開放感ある空間	Comfortable （快適に） バリアフリー対応・空調設備
Clean （清潔で） 汚れにくく乾式清掃ができる床材	Charming （魅力的に） パウダーコーナーの整備
Ecology （環境負荷の軽減） LED照明（約50%省エネ）や節水型便器（約75%節水）の採用	

無人PAのサービス向上

無人PAでの自動販売機による食の提供によりお客さまサービスの向上につなげるとともに、高速道路を通じた地域課題の解決にも貢献する取り組みとして、農福連携「焼き芋自動販売機」の設置を拡大しています。

農福連携とは

農林水産省が推進している、障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組みのことで、農福連携に取り組むことで、障がい者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながることがあります。

焼き芋自動販売機とは

宮崎県延岡市の（株）和光産業による、焼き芋自動販売機の設置を通じた障がい者の就労支援の取り組みです。焼き芋の製造・自動販売機への補充等の工程の一部を、就労機会として提供しています。

※焼き芋自動販売機の設置は、当社グループの地域共創活動（P.53）として取り組んでいます



焼き芋自動販売機の設置箇所

TOPICS

「地域のおむすび＝地むすび」を販売する実証実験

無人PAでのサービス向上に向けた事業可能性を検証するため、2024年4月、舞鶴若狭道上荒川PA（上）にて、兵庫県の食材を使用した「地域のおむすび＝地むすび」を販売する実証実験を実施。「高速道路で地域のごはんを食べ、ほっこり暖かな気持ちになってほしい」という想いから、「おむすび」と「NEXCO」を掛け合わせた「むすびすこ」と名付けました。引き続き、無人PAの利便性向上に努めていきます。



シャワーステーションの充実



シャワーステーション設置箇所

当社では、高速道路をご利用されるお客さまの疲労回復、くつろぎの提供として、11カ所のSA・PAにシャワーステーションを設置しています。

また、スマートキー（電子鍵）による予約システムの導入を拡大しており、順番待ちの時間をショッピングなどで有効にご利用いただけるよう、利便性の向上を進めています。



シャワーステーションには、男女別のコインシャワーとコインランドリーが併設されています。

多様なニーズに応える施設・サービスの整備

設置箇所数：2025年3月末時点



お子さま連れのお客さまへ

- ベビーコーナー 109カ所
- ベビーカーの無料貸出 71カ所



インバウンド対応

- JNTO認定外国人観光案内所 63カ所
- 多言語翻訳サービス 63カ所
- トイレの多言語案内 130カ所*

*：順次拡大中



バリアフリー化

- バリアフリートイレ 307カ所
- オストメイト対応トイレ 243カ所
- 車いすの無料貸出 94カ所



地域とつながるウェルカムゲート

- 一般道からSA・PAをご利用可能なウェルカムゲート 84カ所

店舗リニューアルによる魅力の進化

九州道 北熊本SA 上下線 リニューアルオープン



上り線 「熊本城」をモチーフに、食やお土産など熊本の魅力をぎゅっと濃縮

2024年 12月 オープン

外観の意匠には熊本城の石垣「武者返し」を、内観には熊本県PRマスコットキャラクター「くまモン」を随所に採用。フードホールでは、熊本名物の「たかな飯」定食や太平燕（タイピーエン）、あか牛のステーキなどをはじめ、愛らしいくまモンのパンや人形焼きなどを取り揃え、店内には「隠れくまモン」を探す楽しさも。熊本の魅力がぎゅっと詰まったサービスエリアに生まれ変わりました。



下り線 “瞬”間的に、“旬”の熊本をお楽しみいただける施設に

2025年 3月 オープン

ナチュラルな色合いと素材で「阿蘇の大自然」を表現した店舗は、熊本銘菓を多数取り揃えた売場とコンビニエンスストアを併設。熊本ラーメンや「だご汁」など、フードコートでお楽しみいただける郷土料理のほか、阿蘇自然豚と天草産の塩を使用した「ソルティドッグ」など、テイクアウトも充実。旅の目的地へ急ぐお客さまのニーズにも応えるサービスエリアとなりました。



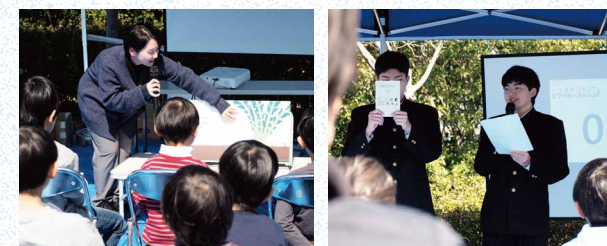
地域の次世代とつくるSA・PA

愛媛大学との産学連携プロジェクト
伊予灘の自然・景色を楽しめる「ピクニックエリア」を新設

松山道 伊予灘SAでは、「地域に愛される伊予灘SA」を目指し、愛媛大学社会共創学部と産学連携を行っています。2025年3月には、学生による現地調査や当社との意見交換により、芝生の上で伊予灘の自然・景色を楽しめる「ピクニックエリア」を下り線に新設。オープン日には、伊予市で活動する「いよ本プロジェクト」と連携した記念イベントを学生と協働で開催しました。地域の魅力を感じられる場所になるように、そして、伊予灘SA自身が地域の魅力になるように、地域を担う次世代との魅力開発を続けていきます。



ピクニックエリアには、恋人の聖地にちなんだハート型ベンチを設置。目の前には、伊予灘の絶景が広がっています。



学生による絵本の読み聞かせ

本を紹介するビブリオバトル



伊予市とのAR体験周遊企画も連携

伊予灘に沈む夕日とシンボルツリー

大学からの声 学生がライフキャリアを考える貴重な機会になっています

愛媛大学 社会共創学部では、2018年度からNEXCO西日本と連携し、伊予灘SAの活性化に取り組んでいます。ピクニックエリアのオープン時には、地域の方々と協力し、「本」をテーマにしたイベントを企画しました。こうした新しい価値を創造する活動に学生が参加することで、単なるインターンシップにとどまらず、自身の将来のライフキャリアを考える貴重な機会となっています。今後も伊予灘SAで多くの方が楽しい時間を過ごすことを目指し、活動に携わっていきたく考えています。

愛媛大学 社会共創学部
学部長 松村 暢彦



地域の学校と連携したオリジナル商品の開発

当社グループでは、地域の学校・企業と連携し、SA・PAで販売する商品の開発を通じた教育機会の提供を行っています。商品開発により次世代の育成に貢献するとともに、次世代が発掘した“地域の魅力”をSA・PAから発信することを通して、地域の魅力発信拠点としてのSA・PAの成長を目指しています。



「元祖 シトライス」

愛媛県立伊予農業高等学校

愛媛の学校給食メニュー「みかんご飯」をタコライス風にアレンジ。中央のスライスみかんは生徒が育てたみかんを使用し、みかんの爽やかさと、本格派でスパイシーなタコスミートがベストマッチ。松山道 石鎚山SA(上)・伊予灘SA(上)(下)にて販売。



「どらきび」

岡山県立岡山東商業高等学校

「岡山県の新名物」を目指し、同校と(株)廣榮堂、当社が連携し開発。備中小白豆を使用した白あんと、廣榮堂の「元祖きびだんご」・「白桃きびだんご」を挟んだ、新触感のどら焼きを、関西・中国エリアのSA・PAで販売。



「塩フィナンシェ」

兵庫県立明石北高等学校

減農薬・減化学肥料で栽培された「Aあかし」のブランド米「花美人」の米粉と、淡路島の藻塩を使った焼き菓子。「人にも環境にも優しい街として明石のことを知ってもらいたい」という生徒の想いが詰まった本商品は、第二神明道路 明石SA(上下)限定で販売中。

担当者の声 旅に刺激をプラスする「クリエイティブLab 北熊本」

北熊本SA上下線のリニューアルに併せて、熊本・九州で生まれた創造的なモノ・コトをお客さまにご紹介する「クリエイティブLab 北熊本」プロジェクトを開始しました。店舗やホールでの展示やワークショップなど、九州各地の魅力に触れられる新しい場を企画しています。お客さまの目的地やお土産、そして思い出が1つ追加になるなど、どんな化学反応を生み出せるかチャレンジしていきます。



九州支社 総務企画部 事業開発課
森 あずさ



店内の地域連携スペースにて、熊本ゆかりのアーティストの作品を展示

全国の人と地域をつなぐSA・PA

SA・PAを単なる休憩場所や通過点にしておくのではなく、SA・PAが目的地となる魅力的なキャンペーンやイベントを開催することで、高速道路網を活用した広域的な誘客を行い、全国の人と地域をつないでいます。

西日本をすみずみまで旅するきっかけに ネクスミッコキャンペーン

関西から九州まで当社管内全域を対象として、サンエックス(株)のキャラクター「すみっこぐらし」と当社がコラボしたキャンペーンを実施。西日本のすみずみまで足を運んでいただけるきっかけになるよう、管内26カ所のSA・PAをすみっこぐらし仕様に装飾し、スタンプラリー企画や地域限定のオリジナルグッズ、地域の魅力を活かしたコラボフードやお土産を販売しました。



キャンペーンキービジュアル



スタンプラリーキット



スーパーすみっこエリア



限定デザインの手のりぬいぐるみは、当社にちなんだもののほか、明太子やふぐ等、地域の特色を活かしたデザインに。



スーパーすみっこエリア

担当者の声 初めての大規模なキャンペーン

当社とすみっこぐらしのコラボではありましたが、地域への誘客や地域の魅力発信もできるよう、キャンペーン内容を検討しました。当社では、これほど大きな規模のコラボキャンペーンは初めての試みだったので、手探りでグループ会社やテナント会社と協力しながら作り上げました。すみっこぐらしのファンみなさまをはじめ、地域の皆さま、そしてグループ社員にとっても、楽しく・魅力あるキャンペーンになっていたら嬉しいです。

事業開発本部 事業開発部 事業開発課 門司 彩



地元の特産品 × キャラクターイベント ピクミンテラス in 宮島SA

山陽道 宮島SA(下)において、任天堂(株)のキャラクターである「ピクミン」をテーマにしたイベントを開催。もみじ饅頭やレモンなど、地域の特産品にちなんだ立体展示やコラボ商品、特設ショップなどを展開しています。



イベント特設サイト



ピクミンたちの立体展示



地元企業とのコラボ商品

香木堂
「かりんとうピクミンテラスセット
(レモン・ちりめん・きな粉)」

地域に根差した高速道路の付加価値

西日本管内24府県の魅力ある“すぐれもの”を発掘・お届け

西日本各地でこだわってつくられた魅力ある“すぐれもの”や、「美味しかったけれどまた買いに行くには遠い」といったSA・PA限定商品をお求めのお客さま向けに、オンラインショップを運営しています。商品に込められた地域の魅力やこだわりを皆さまにお届けすることで、西日本地域を応援します。



高速道路を通したビジネスマッチング

金融機関や自治体等と協力し、地域の企業とSA・PAの商業施設を運営するテナント事業者をマッチングする商談会を継続して実施しています。
地元企業との連携を強化することで、新たな地域の逸品や、地域の食材を活かした食事メニューを開発するとともに、企業が生産している地域産品の販路拡大を目指しています。



パイヤーの声 地域の想いとお客さまの笑顔を橋渡し



商談会では特に意欲の高い事業者さまとの出会いがあります。商談では、そんな事業者さまと会話を紡ぐことで、安全・安心や商品開発に込められた想い、地域の新たな魅力などを引き出すよう心がけています。これからも、西日本を訪れるお客さまの笑顔と満足度の向上のために、西日本のSA・PAへの卸業を担う当社の流通網を活かして、地域とSA・PAの橋渡しをし、良質で多種多様な商品をお届けしていきます。

西日本高速道路ロジスティクス(株) 営業部 調査役(チーフパイヤー) 阿山 真也

運営担当者の声 大阪・関西万博を目前に、過去最大の商談会

地産地消・地域活性化の促進のため、財務省近畿財務局等と連携し、2025年2月に『第4回関西交通ネットワーク大商談会』を開催しました。売り手には地元企業約180社、買い手には西日本のSA・PAテナント以外にも鉄道・空港など関西の交通インフラの小売事業者を迎え、350を超える商談を実施。開催直前の大阪・関西万博のPRブースも設け、関西の魅力を発信するきっかけの場となるよう励みました。

西日本高速道路サービス・ホールディングス(株) 店舗営業部 商品開発課 西野 大空



地域づくりのプラットフォーマーを目指して

地域共創

地域と共に、新しい価値を創る

地域共創活動は、地域と当社グループがお互いのリソースを活かし合い、持続可能な地域づくりにチャレンジする取り組みです。

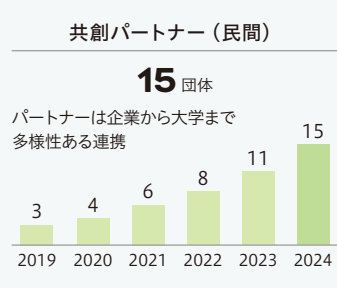
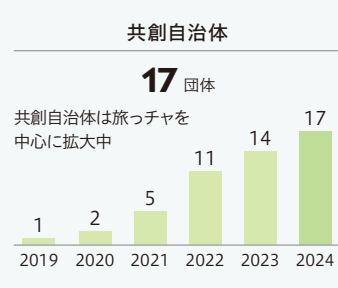
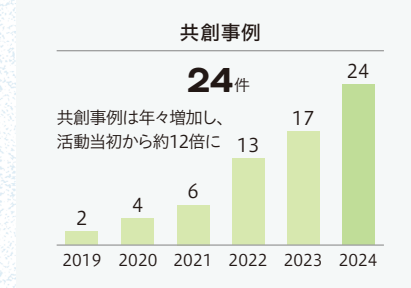
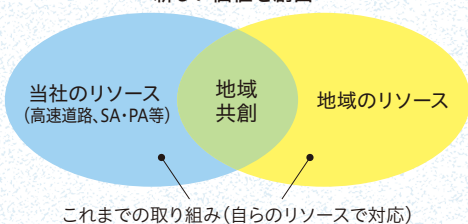
当社グループはこれまで、高速道路等のインフラを活用し、地域の観光産業等の既存市場に対してその効果を発揮してきました。地域課題が多様化する今、既存市場に依存するだけではなく、人と地域をつなぐ力を持つインフラ企業として、地域主体による新たな価値創造を引き出す役割も担う必要があると考えています。

私たちは地域と共に、新しい価値を創る「地域づくりのプラットフォーマー」を目指し、挑戦しています。

地域共創



お互いのノウハウ・リソースを持ち寄り、解決困難な地域課題に取り組むことで、新しい価値を創出



移動シーンを3つに分割したプロジェクト

当社グループの地域共創は都市と地域を結び付け、観光・文化・産業などの地域の価値を引き出すことを目的に活動しています。

地域の価値を最大化させるために、移動のシーンを『旅マエ・旅ナカ・旅サキ』に分割して、各シーンに合わせたプロジェクトに取り組んでいます。

旅ナカ

偶発性とお得感で地域へ送客
クルマ旅キャンペーン「旅っチャ」

旅先で使えるお得なグルメチケット等が入った「運試し型のチケット販売機」をSA・PAに設置し、クルマ旅での偶発性と体験性を演出するキャンペーン「旅っチャ」。高速道路網を活用した広域的な誘客をベースに、SA・PAをお客さまと地域をつなぐタッチポイントとして活用。旅する気持ちを後押しするような企画を自治体や地元企業の皆さまと共創し、地域の魅力にお得にアクセスしていただく機会を提供しています。



1回500円でカプセルを1つゲットすると、必ず500円以上のグルメチケット等が当たる。チケットの内容や使用条件の工夫により、地域のニーズとリソースに応じた送客が可能となる。

旅マエ

九州各地と福岡都市圏を結ぶ架け橋に
産学共創プロジェクト KSUちはやサービスエリア

九州産業大学、高橋(株) (福岡市東区千早に所在するガーデンズ千早の運営会社)と連携し、高速道路のサービスエリアを模したアンテナショップを学生が主体となって企画運営するプロジェクト『KSUちはやサービスエリア』をプロデュースしました。

第一弾として、2024年8月から約1ヵ月間、ガーデンズ千早内に「大分・佐伯サービスエリア」を期間限定で出店。学生が実店舗運営という実践的な経験を積む場を産学共創で実現するとともに、学生が地域と都市をつなげる役割を担い、佐伯市の魅力を福岡都市圏に発信しました。今後、地域と都市を結ぶ新たな交流機会の創出を目指します。



学生からの声 地域の魅力を「自分事として語る」

事前のフィールドワークや店舗運営を通して、外部の人間が地域の魅力を発信するには「地域の当事者としての視点」が大事だと学びました。実際にサービスエリアを訪れてくれた方に「佐伯市を自分事として語る」ことを意識して紹介すると、楽しそうに聞いてくださることが多く、当事者視点で魅力を伝えることにやりがいを感じました。今後、自分がこれまで知らなかった地域を紹介するときはもちろん、自分の地元のことを紹介するときにも「自分事」として魅力を紹介していきたいと思っています。

九州産業大学 地域共創学部 観光学科
西井田 直登(写真中央)



学生の声は
音声メディア
『関門ON AIR』で
配信中

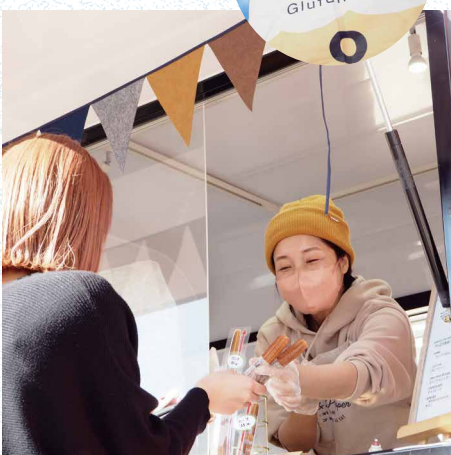


旅ナカ

旅サキ

SA・PAがない沿線地域の魅力も届けたい
動くサービスエリア たかはるSA

宮崎県高原町、奥霧島地域商社ツナガルたかはる(株)との連携協定に基づくプロジェクトの第一弾として、2024年5月から「動くたかはるSA」が始動。SA・PAが位置しない町にも、地域名称を冠した場でお客さまが地域産品等に触れられる機会を創りたいとの想いから、高速道路会社では初となるキッチントレーラーを活用した移動式サービスエリアが誕生しました。高原町産の米粉を使用したチュロスや九州道 宮原SA(上)(熊本県)などで販売することで、高原町の魅力発信・交流人口増につながっています。





サステナ ビリティ への基盤

経営環境の変化に応じて
持続的に進化する企業を目指して

安心して産休に入り、産休・育休後にスムーズに復職できるように、性別にかかわらず誰でも参加できる「産休育休・職場復帰前ガイダンス」を実施。育児経験者の体験談(写真)や制度の解説、グループワークを通して不安を解消する取り組み。



採用情報



環境経営の推進



社会と社員の信頼に応え、進化し続けるグループへ

人とともに



人権

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を策定し、グループ丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。また、本社及び支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を総括するとともに、次年度の活動計画を策定しています。

人権問題啓発推進の主な取り組み

- ・人権ガイドブックや社内報による啓発
- ・人権週間中のメールマガジンの配信
- ・各種社員研修における講義
- ・グループ会社との連携(出張研修等)
- ・外部講演会等への社員の参加を促進
- ・企業活動における人権状況の点検



新入社員研修における人権の講義

人権問題啓発 推進の基本方針 (NEXCO西日本グループ)

- 「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」(世界人権宣言)との認識のもと、私たちは、一人ひとりの人権を尊重し、あらゆる差別をなくすために人権問題の啓発に取り組み、企業としての社会的責任を果たしていきます。
- ・人権尊重の意識を常に持ち、誠実・公正に行動します。
 - ・人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るため、啓発活動を推進します。
 - ・人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めます。

全社員活躍

ダイバーシティや働き方改革、DXの推進により、10年先、20年先の未来を担う人財を創出し、すべての社員が、健康でイキイキと働くことができる職場環境を創ります。

ダイバーシティ
働き方改革



NEXCO West
ACE DXs



全社員活躍へ

人財育成



「安全・安心」を追求し「現場力」あるプロフェッショナル人財、「新しい価値」を実現するイノベティブ人財を育てます。

- 人財育成の見える化
 - ・人財マネジメントの高度化(人財データの統合、成長把握のツール)
 - ・人財育成ロードマップの策定(ジョブローテーションの見直し等)
- プロフェッショナル人財の育成
 - ・研修体系の再構築(研修の全体計画:内容・時期等)
 - ・自ら学ぶシステム作り(コンテンツの充実及び電子化 eラーニング、研修の希望選択制度)
- イノベティブ人財の創出
 - ・多様なキャリアパスとチャレンジ、社外交流・協創

キャリア自律支援



社員の多様な働き方と、自律的なキャリア形成を応援します。

- 多様な人財活躍
 - ・女性活躍促進ロードマップの策定(女性管理職比率の向上)
 - ・シニア活躍プラン
 - ・キャリアとライフの自律研修、育児介護等ライフイベント面談
 - ・男性の家事・育児参画促進(男性育児休業取得率向上)
- 自律的な働き方支援
 - ・時間と場所を選ばない仕事・働き方
 - 柔軟な勤務時間・休暇制度(パートタイム勤務等)
 - 自律的なキャリア選択を可能とする勤務地のあり方検討(勤務地域・単身赴任問題)
 - デジタルツールを活用した柔軟な働き方(テレワーク等)

働きやすい環境



コミュニケーション豊かで、活力ある職場・社員を育みます。

- 明るい職場づくり
 - ・コミュニケーション促進(仕掛け作り、世代間ギャップの解消)
 - ・ハラスメント防止:意識啓発・研修(コンテンツ拡充、電子化 eラーニング)
 - ・社員からの相談体制(相談窓口、One On Oneアプローチ)
- 健康経営
 - ・心身の健康増進(心と身体の相談体制構築、公認心理師の配置等)

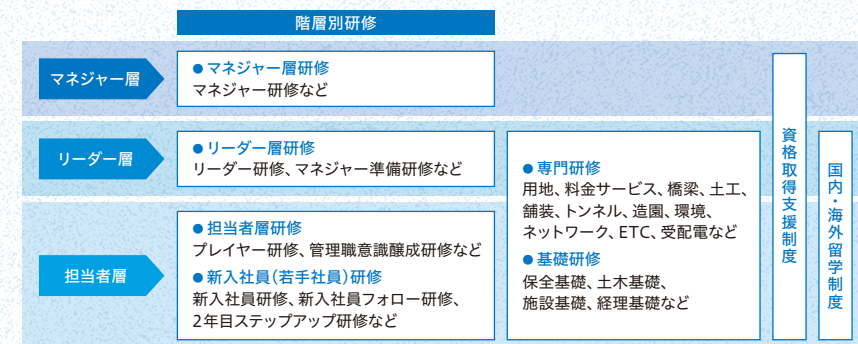


人財育成

当社グループでは、実際の業務におけるOJTや階層別・専門分野別の幅広い研修を通じて、知識・能力を高め、社員の自律的な成長を支援するとともに、グループ会社間における人財交流も実施しながら、より実践力を備えた人財の育成に努めています。

プロフェッショナル人財の育成

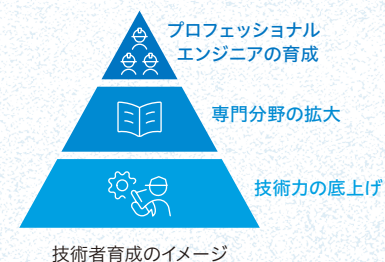
当社では、現場主義に徹して、自ら行動し、自己変革し続けるプロフェッショナルな人財の育成のため、キャリアや目的に応じた様々な研修を実施しています。さらに、資格取得支援制度や留学制度、eラーニングの導入など、社員の自律的な成長を積極的に支援しています。



NEXCO西日本の研修体系

専門技術者の育成

100%の安全・安心の追求や道路資産の永続的な健全性確保を目指し、専門技術力を有する人財を継続的に育成していくための研修施設として、茨木技術研修センター(I-TR:アイトレ)を開設しています。I-TRでは、主として若手技術者・中堅技術者を対象とした基礎研修及び専門研修を行っており、全社的な技術力向上を図るとともに、特定分野に長けた技術者の育成を行っています。また、料金収受スタッフや新入社員研修など、当社グループの様々な研修でI-TRを活用しています。



茨木技術研修センター(I-TR:アイトレ)

劣化損傷した道路構造物や、通信設備・料金機械設備の模擬設備などを設置しており、点検～診断、設備故障や料金収受など、高速道路の総合的な「体験型研修」を実施する研修施設です。



鋼材の疲労亀裂



床版下面の剥落



熊本地震被災物



施設点検実習室



料金・ETC設備実習室

責任者の声 若手技術者のスキルアップを手厚くサポート

民営化以降、私たちの事業は3倍に拡大し、さらに災害の激甚化やIoT、AIなどの技術の進化といった事業環境の変化に対応するため、特に若手技術者の早期育成に力を入れています。I-TRでは、職種を問わず、実践的な研修設備を整え、VRなど最新の技術も取り入れながら、社員が資質や希望に応じて効率的にスキルアップできる環境を提供しています。ここで学んだ社員が現場力を向上させ、高速道路のプロフェッショナルとして成長していくことを期待しています。

技術本部 技術環境部 技術研修・開発担当課長 茨木技術研修センター長 田村 道昭



働きやすい環境

明るい職場づくり

当社では、社員が健康でイキイキと働く環境をつくるための取り組みを積極的に行っています。若手社員を対象としたOne On Oneアプローチや、誰でもいつでも利用しやすい相談窓口を設け、様々な場面において、社員のコミュニケーション促進を後押ししています。

職場環境改善の推進

オフィスの生産性や魅力の向上を図るため、ゆとりあるスペースの確保によるコミュニケーションの活発化、業務の効率化等に資する職場環境改善を行っています。



関西支社休憩スペース

キャリア自律支援

多様な人財活躍

当社グループでは、「違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ」をダイバーシティ推進ビジョンに掲げ、社員一人ひとりの違いを尊重し、個人が持つ力を100%発揮できるよう、環境を整備しています。多様な視点を取り入れることで、イノベーションを起こすとともに、会社を取り巻く様々な環境変化にしなやかに対応できる組織づくりを進めています。

自律的な働き方支援

社員一人ひとりが仕事も生活も充実させ、相乗効果でより活躍できるよう、制度の充実や環境づくりに取り組んでいます。

社員の多様な働き方を支援する取り組み

当社では、社員一人ひとりの仕事と生活が充実し、性別、年齢、ライフステージや価値観の違いなどにかかわらず、多様な人財が活躍できるよう、制度づくり・風土づくりを進めています。

- ・産休育休前・職場復帰前ガイダンス(全社員参加可能)
- ・イクボス研修(管理職対象) ・介護セミナー
- ・キャリア相談窓口(全社員利用可能)
- ・キャリア自律支援研修 など

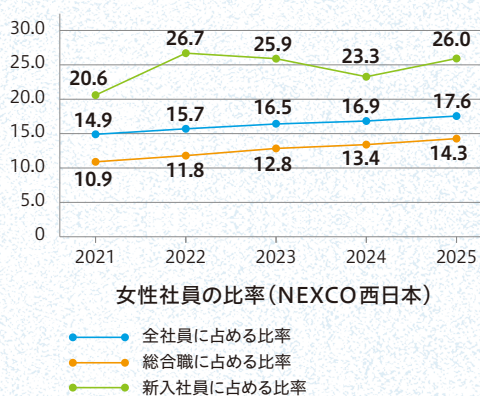
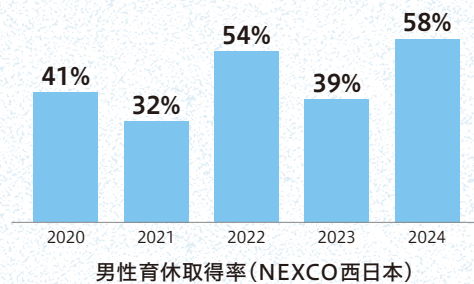
女性活躍促進に関する取り組み

当社では、女性社員が自分らしく働けるように、キャリア形成を支援しています。

- ・若手女性キャリアデザインフォーラム(他企業共催)
- ・女性リーダーエンカレッジプログラム
- ・NEXCO 3社 女性社員交流フォーラム
- ・女性技術者交流フォーラム
- ・女性の健康に関するオンライン相談プログラム など

ダイバーシティ推進ビジョン

違いを尊重し、
個々が活躍し、
進化し続けるチームへ



主な仕事と生活の両立支援制度

※制度の利用には要件があります。

- 時差出勤制度
- テレワーク制度
- キャリア相談窓口



制度利用者の声 部分休業で仕事への活力も増しています

1時間の部分休業を取得しています。16:30に退社したあと、2歳の子どもを保育園まで迎えに行き、夕食の用意や寝かしつけといった育児に励んでいます。日々成長していく子どもと過ごすことで、私自身もより一層がんばろうと、家族から活力を貰えています。部分休業により限られた時間の中で業務を進める必要があるため、今まで以上に業務の優先度を意識しながら仕事をしています。上司と一緒に働く同僚の理解もあり、とても感謝しています。

保全サービス事業本部 改築課 鶴田 義隆



制度利用者の声 テレワークが特に役立っています

当社には仕事と私生活を両立するための様々な制度があり、私もテレワークや部分休業を積極的に活用しています。特に、テレワークはとても便利で、例えばこどもの慣らし保育のときなど、家庭の状況にあわせて在宅勤務ができるので、両立に役立っています。当社では、社員全員にノートパソコンやスマートフォンが貸与されるので、自宅でも問題なく働くことができます。上司も制度活用を積極的に勧めてくれているため働きやすく、自分らしく働けていると感じています。

関西支社 保全サービス事業部
施設計画課 井出 優実



- 転勤特例制度
出産・育児・介護時に転居を伴う転勤を免除する制度
- 転勤特例制度
出産・育児・介護時に転居を伴う転勤を免除する制度
- 育児時間
- 育児休業
- 部分休業
- 両立支援面談制度
- 企業型保育園共同利用制度
- 配偶者出産休暇
- 子の養育休暇
- 子の看護休暇



ジョブリターン制度



- 介護休業
- 介護休暇
- 介護短時間勤務
- Web介護相談窓口
- 両立支援面談制度
- 転勤特例制度
出産・育児・介護時に転居を伴う転勤を免除する制度



制度利用者の声 熟年組でも充実感をもって仕事に挑戦できるチーフ・スタッフ制度

57歳で役職定年を迎えるにあたり、現役引退するには若干の将来不安もありましたが、少しでも元気なうちに、地元の職場で、熟年組でも充実感をもって仕事に挑戦したいという思いが強くあったため、60歳以降も活躍の場が広い「チーフ」の職務を選択しました。現在は、60歳を迎え、幅広い業務を担当できるシニアチーフとして、高知道の補修計画や若手担当者の指導などを担当しています。新しい発想力を持つ若手から学ぶことも多く、自分のキャリアが活かしている実感を持ちながら、充実した日々を過ごしています。

四国支社 高知高速道路事務所
保全計画課 シニアチーフ 別役 一哉



- チーフ・スタッフ制度
役職定年～65歳定年までの働き方を自らのキャリア選択等に合わせて自身で選択できる制度



制度利用者の声 子育てしながら現場で働き、キャリアを築いていくために

当社では、全ての社員が自分らしく働けるように、キャリア形成支援の取り組みがたくさんあります。上司も快く参加を促してくれるので、私はこれまで、女性活躍促進の研修やフォーラム等に複数参加し、自分のキャリアについて考えながら働いてきました。フォーラム等での社内外のロールモデルの講話や意見交換を通して、悩みの共有、会社制度の活用方法や仕事をするうえでの工夫などを知ることができました。現在は、新名神高速道路6車線化工事を担当しており遠隔立会やテレワーク制度を活用しています。夢だった土木の現場で働くことができ、日々充実しています。子育てしながら現場で働いている経験を生かし、子育て中でも夢を諦めなくてもいい環境の整備や後輩のサポートにも貢献していきたいです。

関西支社 新名神大津事務所 甲賀東工区 濱本 夏美



制度利用者の声 キャリアアップのイメージを具体化する「女性リーダーエンカレッジプログラム」

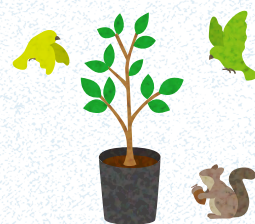
管理職を目前に控え漠然と不安があったことから、女性リーダーエンカレッジプログラムに参加しました。経営層からのメッセージや、女性管理職の先輩方からの経験談に加え、キャリアコンサルタントとの面談を通して、漠然としていた不安が言語化・具体化され、会社でキャリアアップしていくイメージがより具体的に見えたと感じています。現在は現場事務所の課長となり、毎日が初めてのことばかりですが、プログラムで学んだ「周りを頼りながらも、まずはやってみる」ことを胸に、仕事に取り組んでいます。

九州支社 長崎高速道路事務所 料金・交通課長 岩永 礼美



地球とともに歩む

環境経営の推進



当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5カ年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。環境基本計画2025では、環境方針の柱である「脱炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（アクションプラン）を立て、実績を評価しています。



環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。取り組みの実施にあたっては、環境側面に関する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

脱炭素社会の実現に取り組みます

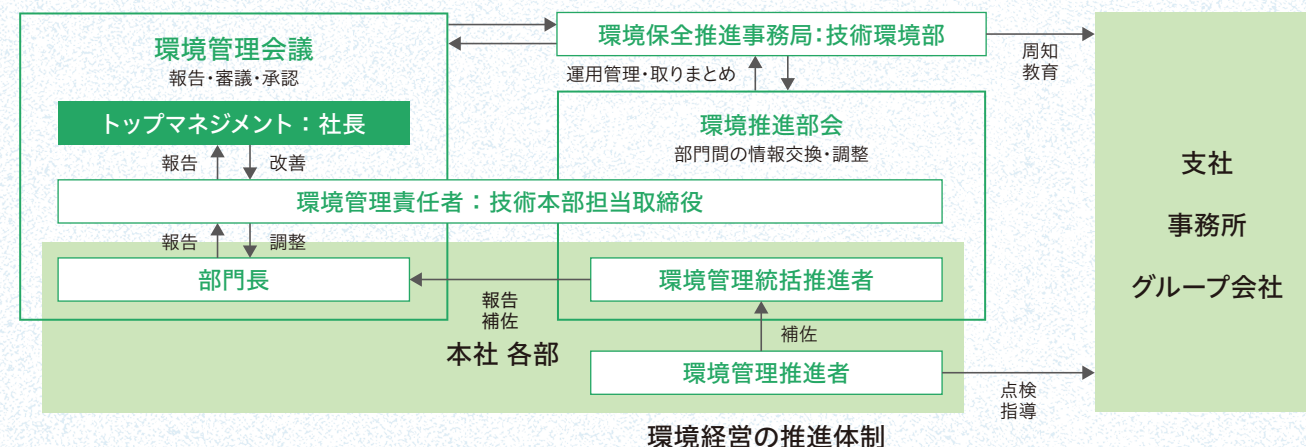
未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組みます。

循環型社会の形成に取り組みます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再利用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組みます。

自然と共生する社会の推進に取り組みます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組みます。



責任者の声 高速道路を通じた環境負荷の軽減に対する取り組み



近年、環境保全に関してカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブがキーワードとなっていますが、当社グループは2008年からこの3テーマの環境方針を掲げ、高速道路を通じて環境負荷の軽減を図るべく、毎年の具体目標を立て取り組んでいます。2025年は地球温暖化対策に係る政府実行計画が見直されており、国の動向に遅れることなく取り組みを続けてまいります。

技術本部 技術環境部 部長 池 聖

当社グループの環境経営の取り組み

脱炭素社会の実現

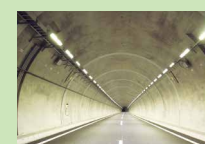
高速道路ネットワーク整備 電動車導入

再生アスファルト混合物の検討

省CO₂材料検討 のり面樹林化

再生可能エネルギーの調達

ZEB化 電気・ガス使用量削減



LED照明導入



太陽光発電



EV急速充電設備整備



建築物木材利用促進

循環型社会の形成

グリーン調達

一般廃棄物削減

アスファルト・コンクリート塊等再資源化

建設発生材等再資源化

休憩施設発生ゴミ再資源化

コピー用紙削減



建設発生土再利用

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止対策

遮音壁設置

高機能舗装



地域性苗木設置



指標・数値目標を定めた環境アクションプランはウェブサイトで公開中

※ ZEB: Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物。



地域の自然環境 × 高速道路会社

つなぎの森

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。当社グループの社員が自治体や森林組合の皆さまと下草刈りや植樹を行い、地域との交流やCO₂吸収源確保に貢献するとともに、社員が環境共生の大切さを学ぶ機会となっています。



建設予定地の希少植物の保護

2023年度から、自然環境保全を目的として、関西支社 新名神京都事務所では、武田薬品工業(株) 京都薬用植物園と連携し、希少植物の保護を行っています。毎年、京都市にお住まいの方と、植物園内の「市民の庭」にコムラサキを移植しています。



脱炭素社会の実現

料金所への太陽光パネル設置

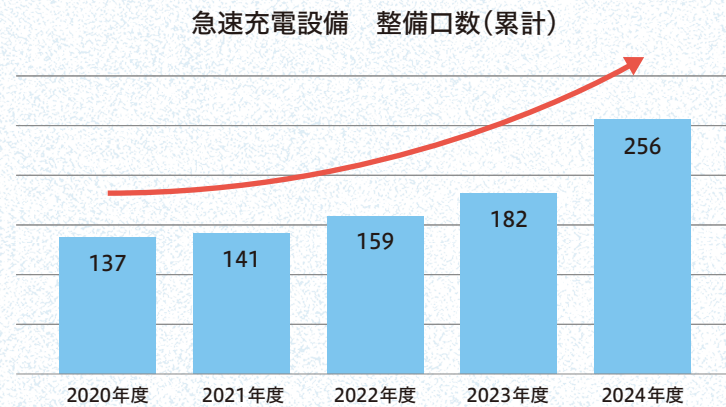
太陽光発電設備を料金所やSA・PA、高速道路の遮音壁等に設置し、その電力を道路設備やSA・PAの運営に活用しています。

照明のLED化

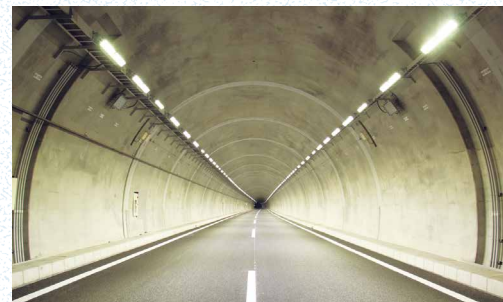
当社グループが使用する電気の3割以上は、高速道路のトンネルに設置された照明によるものです。これらを全てLED化すると、トンネルでの電気使用量の約3割の削減が見込まれます。このため、当社ではトンネル照明のLED化を推進しています。

電気自動車(EV)急速充電設備の整備

クリーンエネルギー車の普及に対応したインフラ環境整備として、電気自動車(EV)をご利用のお客さまの更なる利便性向上を目的に、当社管内のSA・PAへ急速充電設備の整備を加速しています。



料金所の屋根に設置した太陽光パネル



トンネルLED灯



急速充電設備

循環型社会の形成

事業活動に伴って排出される建設廃棄物・建設発生土などの現場内での再利用を推進し、現場で再利用しきれないものについても、再資源化工場や他の工事現場への持ち込みを進めるなど、最終処分(埋め立て)をできるだけ少なくしています。

今後とも建設副産物の3R(Reduce:削減、Reuse:再利用、Recycle:再資源化)に取り組んでいきます。



建設発生土の受け入れ

自然と共生する社会の推進

エコロードの推進

当社が推進している『エコロード』とは、「自然環境に配慮した道づくり」のことであり、日本道路公団設立当初より、のり面の緑化や既存林の保全など、自然環境の保全に向けた取り組みを行っています。

地域性苗木

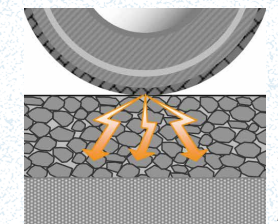
『エコロード』の取り組みの一つとして、自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域に自生する樹木の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路ののり面に植樹しています。地域性苗木は、地域の遺伝子を持つことから、「遺伝子の保全・種の保全・生態系の保全」という生物多様性の保全に寄与しています。



(上)生育中の地域性苗木
(左)開通後13年経過し地域性苗木が樹林化した高速道路ののり面(新名神高速道路 信楽IC付近)
(右)地域性苗木の植栽パック

高機能舗装や遮音壁による騒音対策

当社グループでは、騒音の緩和を道路事業者の重要な責任の一つと捉え、沿道地域の土地の利用状況などを踏まえながら、高機能舗装の敷設や、遮音壁の増設・かさ上げ等の改良に努めています。今後も、必要に応じて沿道環境の保全に努めていきます。



高機能舗装
(空気が舗装内に逃げることで騒音が生じにくい)

担当者の声 カarbonニュートラルに貢献

四国支社管内では、現在14ヵ所20口のEV急速充電設備を充電整備事業者と共同し整備しています。2024年度は、津田の松原SAなど6ヵ所で、充電器更新に併せて増設(1口から2口)を行いました。車いすの方でも使いやすく改良するなど、ユニバーサルデザインとバリアフリー化も進めています。四国にお住まいの方や、観光にお立ち寄りの方など、EVユーザーの皆さまに快適にご利用いただけるよう整備を進めていきます。

四国支社 建設・改築事業部 施設改築課 瀬古 一樹(左)
四国支社 香川高速道路事務所 施設課 高倉 隆一(右)



EV急速充電設備(高松道 豊浜SA(下))



カーボンニュートラルの実現に向けて

2030年度までに温室効果ガス排出量を50%以上削減することを目指し、2023年3月に当社オフィスを対象とした温室効果ガス排出削減等の実施計画を策定しました。現在、事業に関しても、政府実行計画を踏まえた削減計画の策定を進めています。

温室効果ガス
排出削減等
実施計画



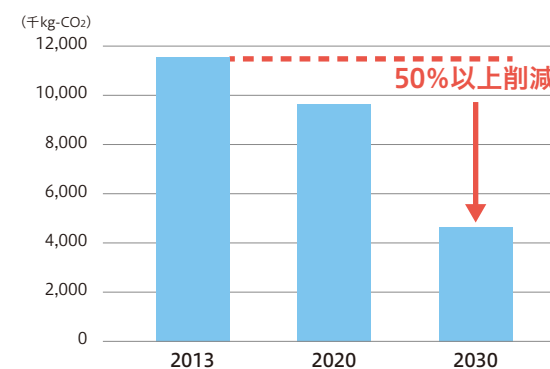
2030年度目標の主な取り組み

1. 社屋の50%以上に太陽光発電設備を設置
2. 新築建築物の平均をZEB Ready相当へ
3. 社用車は電動車へ
4. 電力の60%以上を再生可能エネルギーに
5. LED照明の100%導入



社屋上への
太陽光パネル設置
(九州支社 宮崎高速道路事務所)

オフィスの温室効果ガス排出量



社会インフラを担う企業として、
ステークホルダーの皆さまへの責任を果たすために

会社案内

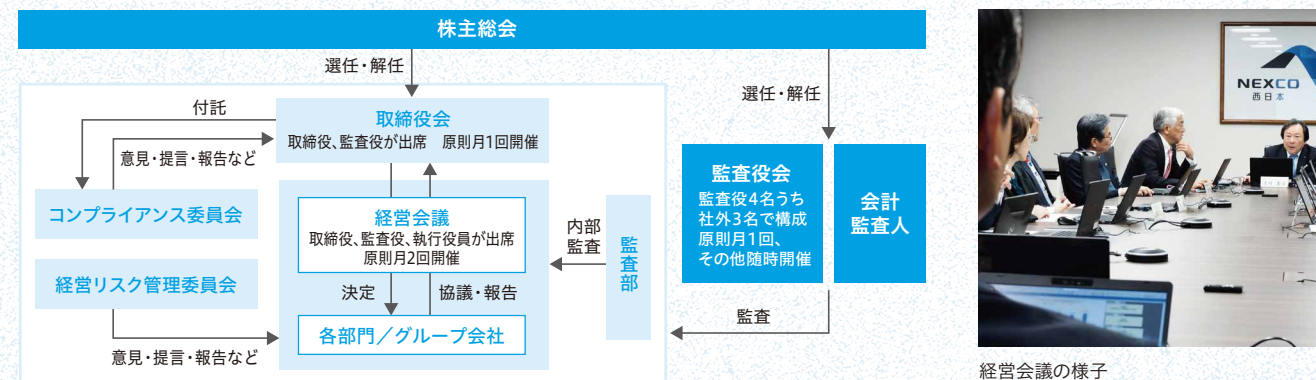


コーポレート・ガバナンス

内部統制

経営の健全性、透明性の確保

当社では、重要な業務執行に関する事項を決議するための取締役会に加えて、経営に関する重要な事項について協議し情報共有等を行うための経営会議を開催しています。また、更なる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。さらに、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するために、コンプライアンス委員会や経営リスク管理委員会などの内部統制システムを整備し、運用状況を定期的に確認することにより、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

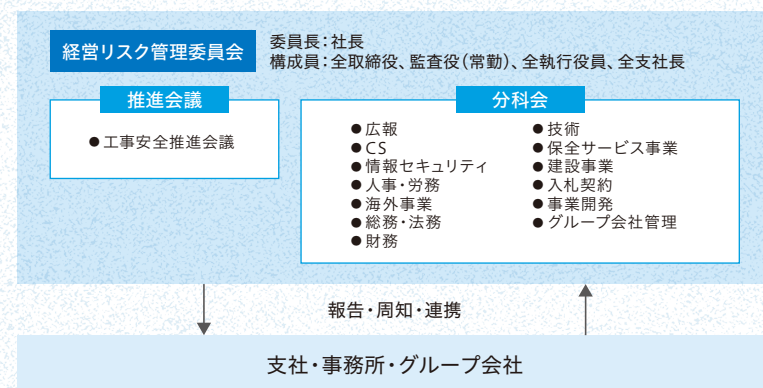


経営会議の様子

リスクマネジメント

自律的なリスク管理

当社グループの事業活動に伴うリスクについては、現場を担う事務所及び支社において、グループ会社と連携しながらリスクの洗い出しを行う等、自律的に管理していくとともに、当社グループ全体のリスクを統括的に管理する「経営リスク管理委員会」を組織し、リスクの評価・見直しや、予防措置、リスク発現時の対応状況の検証など、継続的なリスクマネジメント活動を推進しています。



工事の安全管理

重大事故リスクアセスメント



受注者が抽出した重大事故リスクについて、受発注者間で確認・協議

安全協議会活動の強化



安全パトロール等で重大事故リスク抽出箇所を重点的に点検

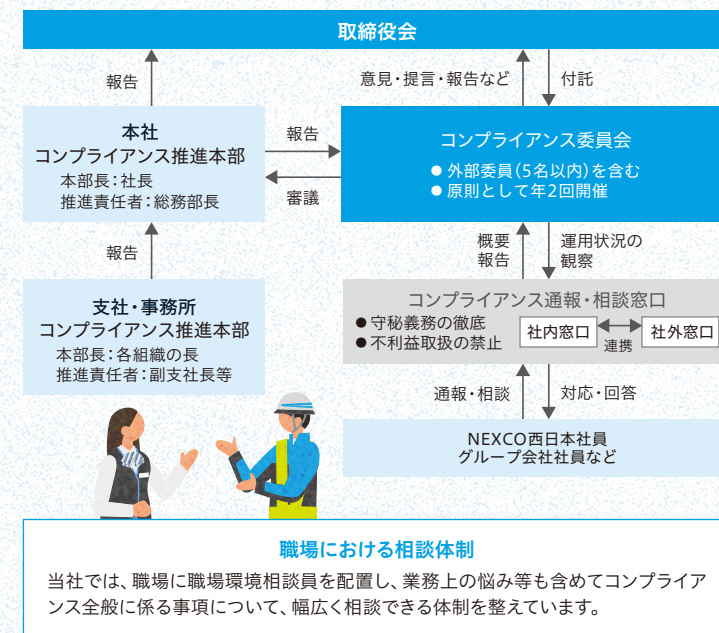
社員教育

研修等を通して、工事中の潜在的な重大事故リスクに関する想像力、予見力を向上

工事の安全管理に関する2024年度の取り組みは、P.16にも掲載しています。

コンプライアンス

当社では、コンプライアンスの徹底と、より高度な倫理観を確立するため、各組織にコンプライアンス推進本部を設置し、コンプライアンス推進計画の作成、実施及び実施状況の検証を行っています。また、自律的な社内秩序の維持、不祥事の抑制・抑止を図るため、コンプライアンス通報・相談窓口を設置し、社員等からのコンプライアンスに関する通報や相談に対応しています。さらに、公正かつ透明性の高い企業活動の実践を図るため、客観性かつ多様な知見を有する外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス向上に向けた意見や提言をいただいています。



TOPICS

カスタマーハラスメントに対する基本方針

当社グループでは、社員が、心身ともに健康で安心して働ける職場環境を確保するとともに、社員に対する悪質なクレーム・言動、いわゆるカスタマーハラスメントについて対応するため、2025年1月、高速道路会社としては初めて、カスタマーハラスメントに対する基本方針を策定しました。持続的にお客さまに高品質なサービスを提供できるよう、社員が安心して働き続けられる環境を構築していきます。



詳細はこちら

西日本高速道路ビジネスサポート(株)によるカスハラ研修での模擬演習



公正な取引

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、公正性・透明性・競争性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取引を行っています。

契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続き

契約手続きの透明性確保のため、工事・調査等の入札・契約情報をウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。また、入札契約手続きの過程及び結果について、各支社に弁護士、大学教授などの有識者からなる「入札監視委員会」を設置し定期的に審議を受け、ウェブサイト上で審議概要を公表しています。

契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保と更なる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守



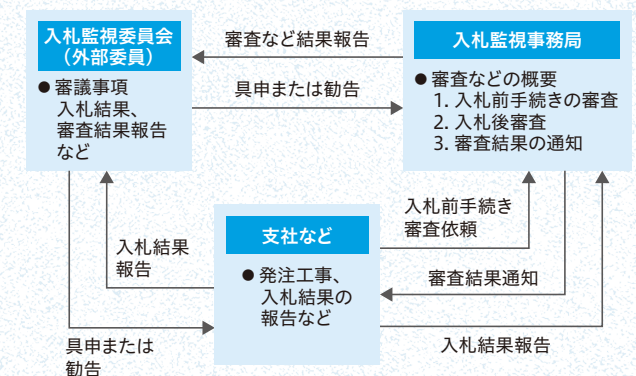
調達・お取引



入札監視委員会の審議概要

発注事務に係る綱紀保持

発注者の綱紀保持に関する規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。この規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。また、この取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。



ステークホルダーとの対話

社長定例会見

当社グループの営業状況や、多岐にわたる事業への取り組みについて理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、メディアを通じた社会への情報発信に努めています。

事業評価監視委員会

当社事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。当社的高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。

投資家説明会

毎年7月に投資家や金融機関の皆さまをはじめとした市場関係者を対象に事業説明会を開催し、当社の事業に対する理解を深めていただくよう努めています。また、質疑応答などを通じて、経営層と直接対話していただく機会とすることで、双方向コミュニケーションの場としても活用いただいています。



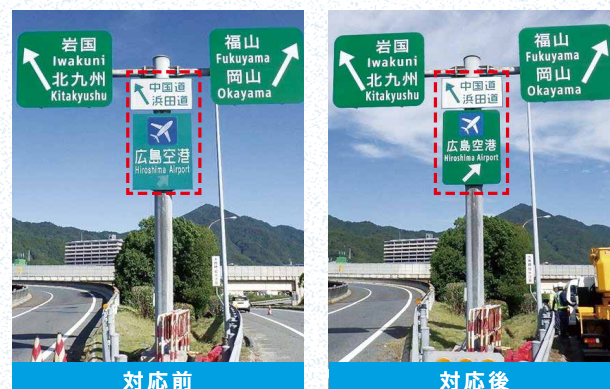
投資家説明会の様子

記者交流会

報道機関の皆さまと当社グループ経営層の対話の場として、記者交流会を開催しています。毎年1回、関西・中国・四国・九州・東京の各地区にて開催し、いただいたご意見をもとに更なる広報活動の充実に努めています。

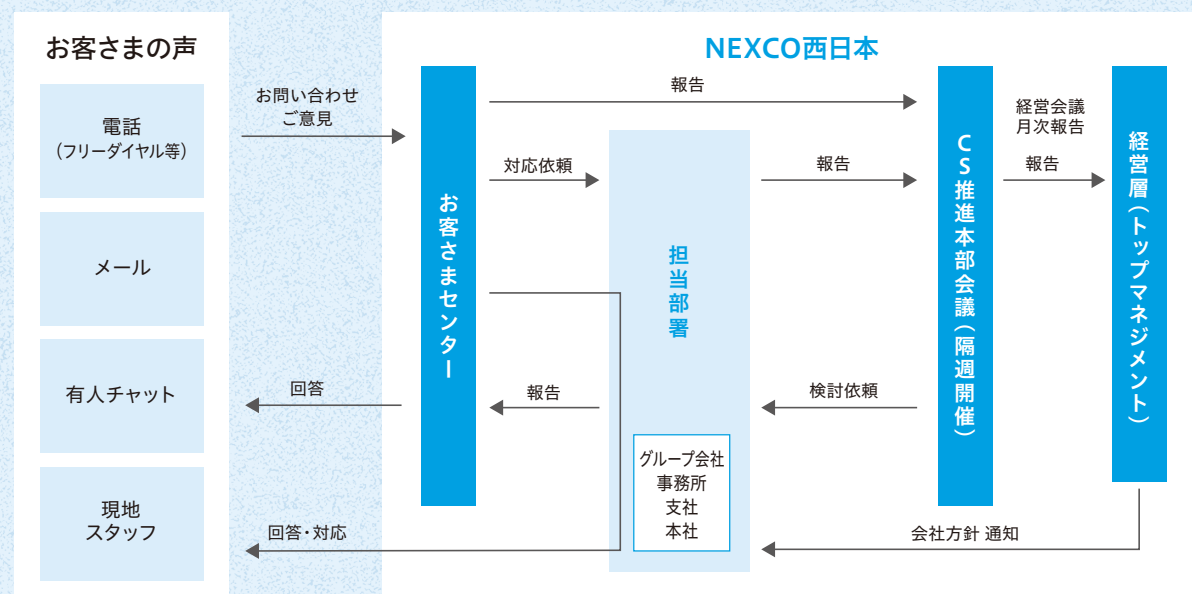
お客さまの声

お客さまから寄せられたご意見・ご要望等は、経営層を含む「CS推進本部会議」(隔週開催)にて議論し、経営会議へ報告する等しています。お客さまの安全・安心等の重大リスクに関わるご意見については特に注目して議論するとともに、社内で水平展開すべきものを重点課題として選定し、抜本的な課題解決に向けた議論も行っています。



広島空港の方向を示す標識が見にくいとお客さまの声を踏まえ、標識を更新(山陽道 広島IC)

お客さまの声 対応フロー



お問い合わせ先やご意見・ご要望を踏まえた改善事例



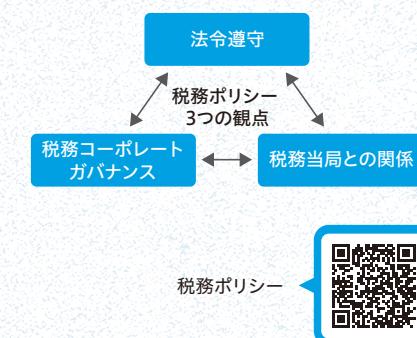
情報セキュリティ

情報漏洩を「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立し、情報セキュリティに対する社員の意識を高めるため、ハード・ソフト面での対策を講じ、不正アクセス対策、ウイルス対策並びにメールの誤送信対策を徹底しています。また、DXの推進にも取り組んでおり、セキュリティ強化と情報連携の円滑化を目的に、グループ全体のIT基盤と運用管理の共通化を進めています。



税務ポリシー

当社グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税を行います。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。私たちは、3つの観点に基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。



税務ポリシー



日本の技術とノウハウで国際社会に貢献

海外への展開



当社グループは、高速道路の建設・運営管理の経験により培った技術やノウハウを活かして、海外展開を進めています。本社と海外拠点が連携し、点検技術の外販や高速道路運営プロジェクト(PPP事業)※、コンサルティング事業等を行っています。これにより、海外の道路の品質と安全性向上に貢献するとともに、その経験を国内の道路事業にフィードバックすることを目指しています。

※PPP(Public Private Partnershipの略):官と民がパートナーを組んで事業を行う官民連携の形態

米国における事業展開

2011年、米国での橋梁点検業務参入を目的に、NEXCO- West USA, Inc.を設立しました。赤外線や画像診断技術を用いた構造物点検やコンサルティング事業を進めています。2024年9月には、米国における道路橋点検の高度化に資する先駆的事业活動として、第7回 JAPANコンストラクション国際賞 国土交通大臣表彰を受賞しました。



左から、USA社CEO 松本 正人、齊藤 鉄夫国土交通大臣(当時)、森地 茂審査委員長

インドネシア高速道路PPP事業へ参入

2011年に開設したインドネシア事務所を足掛かりに、現地企業2社の株式を一部取得し、日本の高速道路会社として初めて、インドネシア道路PPP事業に参入しました。出資先会社が行っている新規建設事業・供用中道路の維持管理事業について、当社から出向している社員が技術的指導・支援を行っています。



インドネシアの現地パートナー企業での研修活動(右端が当社社員)

安定した経営基盤で、安全・安心を提供し続ける

財務情報



連結損益計算書

(単位:億円)				
区分		2024年度	2023年度	増減
営業収益	高速道路事業	11,975	10,314	1,660
	料金収入	7,801	7,613	188
	道路資産完成高	4,131	2,659	1,472
	その他	42	42	0
	関連事業	481	456	25
	SA・PA事業	331	311	19
	その他の事業	150	144	5
計		12,457	10,770	1,686
営業費用	高速道路事業	11,966	10,268	1,698
	道路資産賃借料	5,554	5,406	147
	道路資産完成原価	4,131	2,659	1,472
	管理費用	2,280	2,202	78
	関連事業	421	402	19
	SA・PA事業	279	264	15
	その他の事業	142	137	4
計		12,388	10,670	1,718
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	8	46	▲ 37
	関連事業	59	53	5
	(うちSA・PA事業)	52	47	4
	計	68	99	▲ 31
経常利益		111	132	▲ 20
当期純利益 ^{※1}		91	106	▲ 14

※1 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。
 ※2 億円未満は切り捨てて表示しています。

主要な経営指標等の推移

(単位:億円)

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
営業収益 (億円)	9,309	13,296	9,770	10,770	12,457
経常利益または経常損失(▲) (億円)	▲ 32	79	16	132	111
親会社株主に帰属する当期純利益または 親会社株主に帰属する当期純損失(▲) (億円)	▲ 65	66	3	106	91
純資産額 (億円)	2,170	2,260	2,335	2,499	2,663
総資産額 (億円)	16,438	16,483	20,278	25,323	26,907
1株当たり純資産額 (円)	2,282.47	2,377.74	2,456.53	2,629.36	2,801.28
1株当たり当期純利益金額または 1株当たり当期純損失金額(▲) (円)	▲ 69.12	69.82	4.13	111.70	96.19
自己資本比率 (%)	13.2	13.7	11.5	9.9	9.9
自己資本利益率 (%)	—	3.0	0.2	4.4	3.5

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を2021年度の期首から適用しており、2021年度以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標となっています。
 2. 2020年度の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失が計上されているため、記載していません。
 3. 億円未満は切り捨てて表示しています。

連結決算実績の解説

1. 高速道路事業

・管内の高速道路の通行台数は、対前期1.5%増の306万台／日となり、料金収入は、対前期188億円(2.5%)増の7,801億円となりました。

・道路資産完成高は、西九州道(佐世保道路)の4車線化事業の完成や中国道リニューアル工事の一部完成などがあり、対前期1,472億円増の4,131億円となりました。

なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」といいます。)に引き渡すため、道路資産完成高は、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。

・高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期147億円増の5,554億円となりました。

・管理費用は、前年に比べて降雪量が増加したことなどに伴う凍結防止や除雪にかかる費用の増加などがあり、対前期78億円増の2,280億円となりました。

・高速道路事業の営業利益は、対前期37億円減の8億円となりました。

2. 関連事業

・SA・PAの飲食物販売上高は、対前期37億円(3.8%)増の1,017億円となり、SA・PA事業の営業収益は、対前期19億円(6.3%)増の331億円となりました。

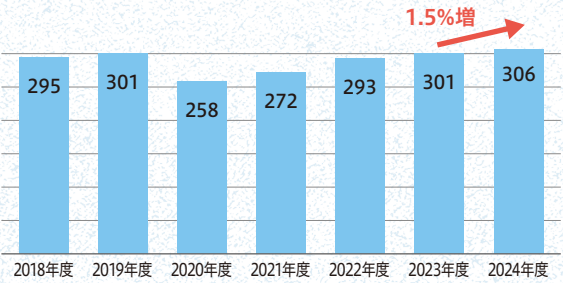
・SA・PA事業の営業利益は、対前期4億円増の52億円、関連事業全体では対前期5億円増の59億円となりました。

3. 全事業

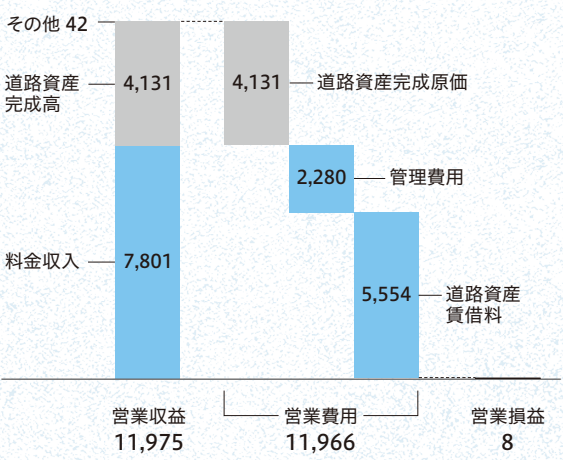
・全事業営業利益は、対前期31億円減の68億円となりました。

・当期純利益は、対前期14億円減の91億円となりました。

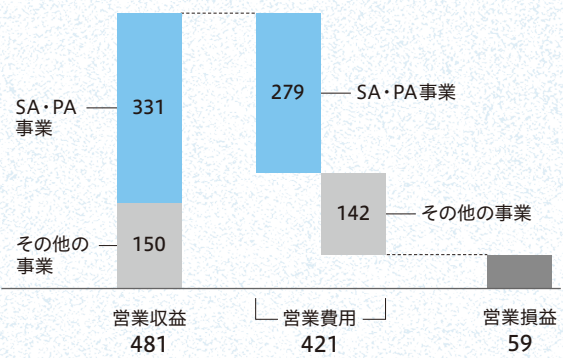
高速道路通行台数の推移 (単位:万台／日)



高速道路事業の損益 (単位:億円)



関連事業の損益 (単位:億円)



※ 億円未満は切り捨てて表示しています。

IR情報



担当者の声

投資家の皆さまのご期待に応える



投資家の皆さまとの日々の対話の中で、災害の激甚化や2024年問題などの経営環境の変化によって、高速道路が持つ社会的役割の重要性が高まっていることを実感しています。当社の資金調達にはソーシャル・ファイナンスとしての外部認証を取得しており(P.6)、累積調達額は4年間で2兆円を超えました。このように、サステナブルな社会の実現のために大きなご期待を寄せていただいている企業の一員として、そのご期待に応えられるよう、引き続き、投資家の皆さまと丁寧な対話を行い、安定的かつ低利な資金調達を行ってまいります。

財務部 財務課 原田 まみ

会社概要

会社概要



商 号 西日本高速道路株式会社
(West Nippon Expressway Company Limited)

代 表 者 代表取締役社長 芝村 善治

本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号

資 本 金 475億円

設立年月日 2005年10月1日

従業員数※ (単体)2,697人 (連結)16,219人

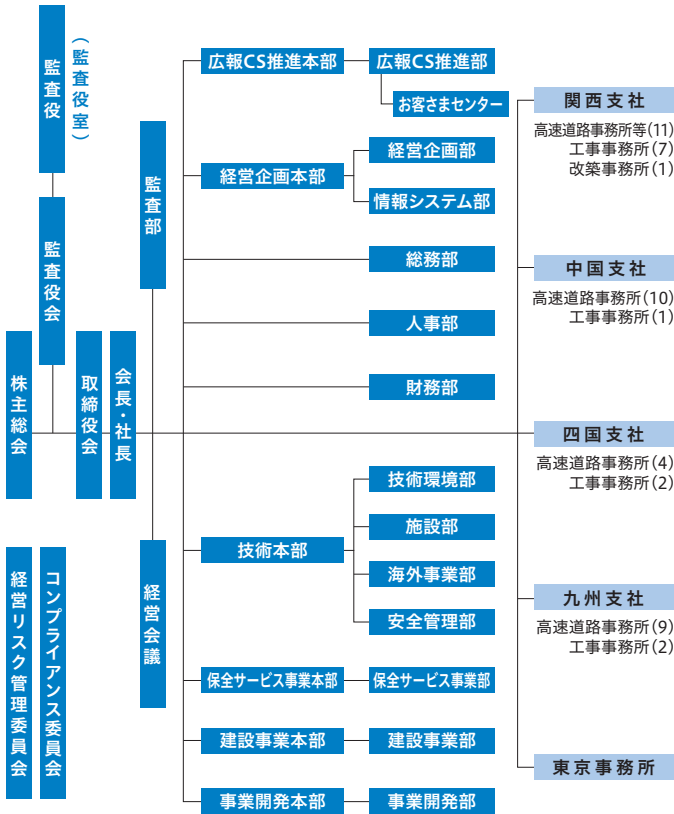
※ 2025年3月末現在



TEAM NEXCO西日本

NEXCO西日本 組織図

組織図



グループ会社

グループ会社



連結子会社 27社

- 料金収受
西日本高速道路サービス関西株式会社
西日本高速道路サービス中国株式会社
西日本高速道路サービス四国株式会社
(※ 交通管理も実施)
西日本高速道路サービス九州株式会社
西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
(※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)
- 交通管理
西日本高速道路パトロール関西株式会社
西日本高速道路パトロール中国株式会社
西日本高速道路パトロール九州株式会社
- 点検・管理
西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
(※ 保全作業も実施)
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
(※ 保全作業も実施)
- 保全作業
西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
- 不動産関連業務及び人材派遣業務
西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- SA・PAの運営・管理
西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
西日本高速道路ロジスティックス株式会社
西日本高速道路リテール株式会社
- 一般自動車事業
芦有ドライブウェイ株式会社
- 海外事業
NEXCO-West USA, Inc.
- 橋梁補修技術の開発及び工事・コンサルタント・調査等事業
株式会社富士技建
NEXCO西日本コンサルタント株式会社
NEXCO西日本イノベーションズ株式会社
- 維持管理システム・ITインフラ等業務
NEXCO西日本情報テクノロジー株式会社
- 広告事業
NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社 1社

- SA・PAの運営・管理
沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

- システムの開発・改良及び運用管理
株式会社NEXCOシステムソリューションズ
- 研究及び技術開発
株式会社高速道路総合技術研究所
- 料金収受機械等保守整備業務及び料金収入計数管理業務等
高速道路トルテクノロジー株式会社
- 保険代理業務
株式会社NEXCO保険サービス
- トラックターミナルの運営
九州高速道路ターミナル株式会社
- 海外事業
日本高速道路インターナショナル株式会社

事業エリア

事業エリア



高速道路事業

営 業 中 道 路 3,625km
I C 数 IC 479カ所 うち、スマートIC 39カ所
利 用 台 数 306万台/日(2024年度実績)
料 金 収 入 7,801億円(2024年度実績)
建 設 中 道 路 新設区間56km
6車線化及び4車線化区間171km※

※道路整備特別措置法第3条に基づく改築事業に限る

SA・PA事業

サービスエリア 100(94)カ所
パーキングエリア 213(98)カ所
売 上 高 1,794億円(2024年度実績)

※ 上下線各1カ所でカウントしたエリアの数
※ ()内は、第三セクターの運営を除いた
有人の営業施設の数



高速道路凡例

- 営業中
- 新設・改築事業中※
- NEXCO西日本グループが管理するその他の道路
- 他の道路管理者が管理する道路

※ 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
※ 一部6車線化及び4車線化事業を含み表示している

標記上の略称
SA: サービスエリア PA: パーキングエリア
JCT: ジャンクション S: スマートインターチェンジ



(2025年6月現在)

NEXCO西日本グループのあゆみ

当社は2005年に設立されました。前身の日本道路公団を含めると60年を超える歴史になり、私たちは半世紀以上にわたって、24時間365日、我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラである高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

1956-2004

1956
日本道路公団発足



1963
日本初の高速道路 名神高速道路
(栗東IC～尼崎IC) 開通



1965
名神高速道路 全線開通



1991
ロゴマークの
導入



1995
1月
阪神・淡路
大震災

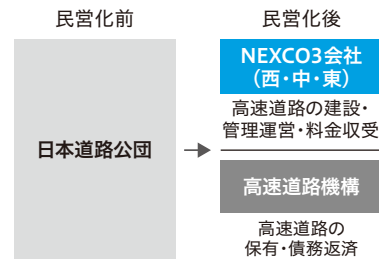


2001
ETCの運用開始

2005-2010

2005

10月
日本道路公団の分割・民営化により西日本高速道路(株)設立



2006

4月
ブランドネーム、ロゴマーク決定



2007

11月
阪和自動車道 全線開通



2008

2月
新名神高速道路
(亀山JCT～草津田上IC) 開通



11月
ハイウェイ交通情報提供『iHighway』
サービス開始



2010

3月
第二京阪道路
全線開通



2011-2015

2011

3月
東日本大震災



2012

12月
中央道笹子トンネル
天井板崩落事故発生



2013

4月
京都縦貫自動車道
(沓掛IC～大山崎JCT・IC) 開通

2014

5月
道路整備特別措置法等改正
(高速道路リニューアル
プロジェクトのため
料金徴収期限を延長)



2015

7月
舞鶴若狹自動車道 全線開通

2015

3月
徳島自動車道
(鳴門JCT～徳島IC) 開通

6月
茨木技術研修センター
「I-TR(アイトレ)」開設

2016-2020

2016

4月
熊本地震



4月

新名神高速道路
有馬川橋
橋桁落下事故発生



4月

東九州自動車道
(椎田南IC～
豊前IC) 開通
北九州市から
宮崎市が直結



2018

3月
新名神高速道路
(高槻JCT・IC～
神戸JCT) が全て開通
宝塚北SAオープン



7月

平成30年7月豪雨
(37道路、2,299kmが
通行止め)



9月

台風21号
(関西国際空港
連絡橋タンカー船
衝突)



2020

中国自動車道(吹田JCT～神戸JCT)の
リニューアル工事を開始



2021-

2022

3月
播磨自動車道
(播磨新宮IC～宍粟JCT) 開通



3月

徳島南部自動車道
(徳島JCT～徳島沖洲IC) 開通



2023

5月
道路整備特別措置法等改正
(高速道路の更新・進化のため
料金徴収期限を延長)

2020-2023

新型コロナウイルス
感染症の蔓延



CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することを目指しています。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)

2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成すべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



重要課題		ステークホルダー参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)	KPI(マネジメントアプローチ)					関連ページ
				管理のポイント・指標	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標	集計範囲	関連するSDGs	
 お客さま	交通安全の取り組み	●お客さまセンター(高速道路利用者) ●SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) ●SA・PAインフォメーション(高速道路利用者) ●現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) ●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体)	高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。	死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	3.8件/億台km	4.0件/億台km	3.6件/億台km	NEXCO西日本事業エリアの全国路線網		P.27
				車限令違反車両取締台数(高速道路上で実施した車限令違反車両の取締りにおける措置命令台数)	—	304台	—			P.20
				逆走事件数※1(交通事故または車両確保に至った逆走事案の件数)	—	84件	—			P.28
				人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案の件数)	730件	908件	700件			—
	快適な高速道路空間の提供		高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価))	3.7ポイント	3.7ポイント	3.7ポイント			P.67
				年間利用台数	1,082百万台	1,109百万台	1,109百万台			P.7,70,72
				通行止め時間(営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間)	—	79時間	—			P.17-30
				本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	573万台・時	751万台・時	661万台・時			P.28
				路上工事による交通規制時間※1(道路1kmあたりの路上作業に伴う交通規制時間)	—	104時間/km	—			P.12-26,31-38
	SA・PAのお客さま満足施設への変革		高速道路は基本的なインフラであり、誰もが利用しやすい施設であることが求められています。	ベビーコーナー設置箇所数	—	1カ所(累計109カ所)	—			P.48
				キャッシュレス決済率	—	36.6%	—			—
 社会	社会基盤である高速道路の整備と長期保全	●事業説明会(地域住民) ●設計協議(地域住民) ●お客さまセンター(高速道路利用者) ●SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) ●包括協定・災害協力協定・連携協定(当社事業エリアの各府県・政令指定都市、陸上自衛隊) ●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体)	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	新規開通路線延長	—	—	—	NEXCO西日本事業エリア	 	P.31-35
				4車線化完成路線延長※道路整備特別措置法第3条に基づく改築事業に限る	5.7km	18.0km	2.8km			P.37,38
			管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	快適走行路面率(快適に走行できる舗装路面の車線延長)	98%	98%	95%			P.8,19-22,62,64
	災害対応力の強化		災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。	南海トラフ地震等における被害に備えた防災備蓄品の新規備蓄箇所	(2023年度で供用中路線の備蓄整備完了) 累計248カ所	累計248カ所	—			P.25,26
	高速道路を通じた地域活性化		人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	地域物産展実施エリア	—	57カ所	—		 	P.48-54
				地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数	延べ3,663日	延べ3,880日	延べ3,880日			P.48-54
				ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	1カ所(累計84カ所)	—			P.48
				地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数	350千件	282千件	280千件			P.43
	透明性の高い経営と着実な債務の返済		国民の財産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。	高速道路機構の債務削減	P.7の「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。			(旧道路関係4公団)		P.7
	積極的な情報公開		ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。	社長定例会見、記者交流会の開催	16回	16回	16回	NEXCO西日本		P.67
				Facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式Facebook登録者数の増)	登録者数30,000人	登録者数30,000人	—	NEXCO西日本グループ		裏表紙
				CSR報告書での企業活動報告	1回	1回	1回			P.1

※1 集計期間：2024年1月1日～12月31日(他は2024年度実績) ※2 実績には速報値を含む

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

重要課題		ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連ページ		
				管理のポイント・指標	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標	集計範囲	関連するSDGs			
	公正な取引関係	● 入札監視委員会 (外部有識者)	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数		—	8回 (各支社2回)	—	NEXCO西日本		P.66	
	SA・PAの テナント会社との 協働	● 現場責任者会議等 (SA・PAテナント会社)	お客さまの多様なニーズ に応えるため、SA・PAの お取引先さまとの協働を 重視しています。	安全・安心に係る講習等		—	年3回	—	飲食物販テナント事業者等		—	
				誤給油防止訓練		—	年2回	—	元売テナント事業者等		—	
	「安全・安心、 信頼され成長する 企業グループ」を 担う人財の育成	● キャリア相談窓口 (NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会 (NEXCO西日本労働組 合員) ● 外部講師による研修 (グループ社員)	安全・安心を最優先に、 高速道路の進化に挑み続 けるため、一人ひとりが 仕事を通じて自律的に成 長していける人財育成と、 組織・会社の自己変革が 重要だと考えています。	階層・職種別研修		—	延べ 1,042回	—	NEXCO西日本グループ	  	P.55-60	
				資格取得支援制度の利用者数		—	368名	—	NEXCO西日本		P.57,58	
				女性管理職者比率		—	1.9%	—	NEXCO西日本		P.55-60	
				男性労働者の育児休業取得率		—	58.8%	—	NEXCO西日本		P.55-60	
				新規採用に占める女性の割合		30.0%	23.3%	30.0%	NEXCO西日本		P.55-60	
	脱炭素社会の実現	● 各種の対話の機会を通 じた環境コミュニケー ション(お客さま、地域 住民、従業員、専門家)	高速道路では、自動車 から大量のCO ₂ が排出さ れるため、道路運営全体 で、その排出量削減が求 められています。	● 環境アクション プラン ● 省エネルギー 活動	道路施設の維持管理に要する 電気使用量	2020年度実績より 4.0%以上削減する	8.1%削減	2020年度実績より 5.0%以上削減する	NEXCO西日本事業エリア	  	P.61-63	
					新設料金所等に 太陽光発電を設置する	累計20kW	累計20kW	累計30kW			P.61-63	
					エネルギー供給システムに対応 した、適切なインフラの整備	電気自動車用急速 充電設備を新たに 85口増設する	電気自動車用急速 充 電 設 備 を74口 整備完了	電気自動車用急速 充電設備を新たに 70口増設する			NEXCO西日本事業エリア のSA・PA	P.61-64
	循環型社会の形成		高速道路の建設では、大 量の建設副産物が発生 するため、その削減が求 められています。	● 環境アクション プラン ● 環境物 品 等 の 調達の推進	事務用品における 特定調達物品等の調達率	100%	100% (規格等により適合 商品がない場合を 除く)	100%	NEXCO西日本		P.61-63	
					植物系廃棄物(草刈等)の 有効活用率	97%以上	94.1%	95%以上	NEXCO西日本事業エリア		P.61-63	
					建設発生土の再利用率	80%以上	99.0%	80%以上			P.61,62,64	
					アスファルトコンクリート塊の リサイクル率	99%以上	100%	99%以上			P.61,62,64	
					コンクリート塊のリサイクル率	99%以上	99.9%	99%以上				
	自然と共生する 社会の推進	● 吉野川渡河部の環境保 全に関する検討会(外 部有識者、地域住民) ● 鵜殿ヨシ原の環境保全 に関する検討会(外部 有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部 委員会を設置	高速道路の建設では、沿 道地域の自然環境に影響 を及ぼすため、その影響 の緩和が重要になりま す。また、沿道地域の生 活環境を守るため、道路 交通による騒音の低減が 求められています。	● 環境アクション プラン ● エコロード(自然 に優しい道路づ くり)の推進 ● 周辺の生活環境 への影響を減ら す道路づくり	動物侵入防止対策の 設置・改良箇所	5km	5km	12km	NEXCO西日本事業エリア	 	P.61,62,64	
					遮音壁の設置(設置延長)	累計2.0km	2.0km	2.0km			P.61,62,64	
		「安全」「環境」 「地域貢献」の 取り組み	● 高速道路交通警察隊 (当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会 (当社事業エリアの各府県) ● 包括協定、連携協定 (各地域の地方公共団体)	社会インフラを管理する 公共性の高い企業として、 地域社会への貢献が求め られています。	交通安全出張講座		—	延べ119回	—	NEXCO西日本グループ	 	P.27-28
					職場周辺や各地域での清掃活動		—	延べ911回 8,073人	—			—
つなぎの森活動					—	3カ所	—	NEXCO西日本管内		P.62		

※ 実績には速報値を含む